

平成28年度

事業  
報告



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

# 朝日の社会福祉 2016

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

# はじめに

## 最新の福祉のニーズに応じていきます

誰もが安心して、ともに生きていける豊かな社会を実現したい——。朝日新聞厚生文化事業団は2016年度も、この思いを胸に様々な事業に取り組んで参りました。

子どもの貧困の解消をめざす団体への助成事業を新たに実施したほか、経済的に困難を抱えながら大学進学などをめざす子どもたちを支える「進学応援金制度」を、大幅に拡充いたしました。認知症になっても安心して暮らせる街づくりを進める英国から関係団体を招いて、理想の街づくりを考えるシンポジウムを初めて開催。認知症カフェの開設をめざす団体への助成事業も新設いたしました。もちろん手話啓発などの障害者関連事業、東日本大震災で被災した方々への救援事業など、事業団ならではの事業にも引き続き力を入れて参りました。16年4月に起きた熊本地震では救援金を募り、被災者に送りました。

それぞれの事業の根底にある私たちの思いを、この報告書からくみ取っていただければ幸いです。寄付などを通してご支援いただいたみなさまには、あらためて御礼申し上げます。

少子高齢化や格差の拡大で、福祉を取り巻く環境は年を追って変化しています。私たち事業団は、これまでの足跡を大事にしながらも、つねに最新の福祉ニーズに応じていかなければなりません。その決意も新たに今春、「中期計画2020」をつくり、三つの軸「福祉を支える地域づくり」「福祉を担う人づくり」「支援の輪づくり」を、ミッションとして明確に打ち出しました。地域福祉の発展と、福祉を担う次世代の人材づくりにいっそう積極的に取り組んでいきます。活動にご支援いただける方々とは安定的な関係をつくり、支え合い、安心して暮らせる社会づくりをめざします。

17年4月には改正社会福祉法が本格施行されました。しっかりした組織、体制をつくりながら、これからも力強く福祉事業に取り組んで参ります。温かいご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2017年5月  
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

---

■ 2016年度（平成28年度）朝日の社会福祉 ■

---

目

次

はじめに	1
子どもの福祉	5
朝日こどもの貧困助成・朝日こどもの貧困対策フォーラム	5
児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金	7
第63回朝日夏季保育大学（長野）	7
親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）	9
第33回福祉施設絵画展（名古屋）	9
東日本大震災	10
キャンプホクレレ in HAWAII 2017	10
朝日のあたる家（岩手）	13
こども応援金	13
大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーンサポート」	14
子どもグリーンサポートトレーナー研修（東京）	15
被災地ピジット（岩手・宮城・青森 17カ所）	16
東日本大震災救援事業へのご寄付、16年度は950万円	18
障害のある人の福祉	19
自閉症カンファレンスNIPPON（東京）	19
メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」（高崎、広島、福岡）	19
第33回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）	20
高次脳機能障害講演会～当事者と家族～（東京・大阪）	21
講演会「あなたのうつ 私うつ となりのうつ」（福岡）	23
視覚障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」（東京）	23
第62回耳の日記念行事	24
「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」（東京）	24
第35回肢体不自由児・者の美術展（東京、福岡）	24
第51回名古屋市障害者作品展示会	25
第37回障害者歩くスキーの集い（札幌）	25
第37回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（宮崎）	26
第28回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（大分）	26

高齢者の福祉..... 27

- A D I 国際会議プレイベント（東京、大阪） 27
- 高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ「あまなつ」（南伊豆） 29
- ともにつくる認知症カフェ開設応援助成 29
- 高齢者在宅ケアモデル事業 ～認知症カフェ開設講座～ 30
- 朝日高齢者福祉セミナー2016（名古屋） 31
- 世代間交流「グラン・チャ・プロジェクト」（大阪） 32
- 高齢期の豊かな暮らし研究会講演会（大阪） 33
- 高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」（全国23カ所） 35

福祉啓発・公衆衛生 ..... 39

- 第12回自殺防止事業「自殺とマスメディア報道」（福岡） 39
- いのちの電話などに福祉助成金（福岡） 39
- アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津） 40
- 第68回保健文化賞（東京） 40
- 遺贈・遺言セミナー（東京、大阪、名古屋、福岡） 41
- 熊本地震救援金 42

チャリティー事業..... 43

- 朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京） 43
- 第66回メサイア演奏会（東京） 44
- 第58回各派合同三曲演奏会（大阪） 45
- 第64回洋舞合同祭（大阪） 45
- 第63回各流合同茶会（大阪） 46
- 第4回関西学生チャリティー茶会（大阪） 46
- 第62回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋） 47
- 第54回チャリティー大茶会（北九州） 47
- 杵勝会第34回歳末チャリティー長唄演奏会（東京） 48
- 浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート（埼玉） 48

主な後援・協賛・協力事業一覧	49
チャリティー美術展に出展いただいた皆様	54
ご寄付をいただいた皆様	62
中期計画2020	68
朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内	73
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	75
2016年度事業活動計算書より抜粋	77
理事・監事・評議員名簿	78
お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿	79

## 子どもの福祉

### 朝日こどもの貧困助成・朝日こどもの貧困対策フォーラム

事業団、朝日新聞社主催  
 助成金事業後援：内閣府、全国社会福祉協議会  
 フォーラム後援：文部科学省、厚生労働省、内閣府、全国社会福祉協議会

およそ6人に1人の子どもが貧困状態にあると言われる現状を受け16年度、新たに「朝日こどもの貧困助成」を実施しました。全国10団体に合計約1,000万円を贈呈しました。

#### ●朝日こどもの貧困助成

子どもたちが環境や状況に影響されることなく、教育を受け、社会に受容され、自立して生きていけるように、子どもの貧困問題に取り組む団体や事業を支援するための助成事業です。

7月15日から9月1日まで募集し、90件の申し込みがありました。①先進的で独創的な事業②持続性と広がり期待できる事業③新たな福祉問題や社会問題の掘り起こしにつながる事業という基準のもと、実地調査も含めて事業団内に設けた選考委員会による3次に渡る選考を行い、10団体、総額977万円の贈呈を決定しました。これら10団体を招き、12月6日に朝日新聞東京本社内で贈呈式を行いました。

#### ●朝日こどもの貧困対策フォーラム～ともに考えよう こどもたちの未来～

助成金を贈呈した10団体のうち3団体を招き「朝日こどもの貧困対策フォーラム～ともに考えよう こどもたちの未来～」を、17年3月19日に浜離宮朝日小ホールにて開催しました。選考委員長を務めた立教大学コミュニティ福祉学部教授の湯澤直美さんが、「こどもの貧困の現状と未来につなげる支援」という演題で基調講演を行いました。湯澤さんは、子どもの貧困問題の背景には雇用の劣化や家族機能の低下など複合的に問題が絡み合っていることを指摘し、親や子どもが抱える問題が雪だるま式に大きく膨れ上がっていくと説明。また、動画を交えながら、子どもたちが育まれていく中で「重要な他者」や「ななめの関係」が必要だと訴え、「1人の100歩よりも100人の1歩が大事です」と会場に連携の大切さを呼びかけました。



贈呈先の団体を代表して、埼玉県熊谷市の「あんしん母と子の産婦人科連絡協議会」理事長の鮫島浩二さん、「認定NPO法人 フードバンク山梨」理事長の米山けい子さん、鹿児島県沖永良部島の「特定非営利活動法人 心音(こころね)」理事長の安徳建二さんが、それぞれの活動報告をしました。

鮫島さんは、産婦人科医の傍ら特別養子縁組事業を続けており、全国へのネットワーク展開を紹介。若い女性の相談件数が比較的多いことなどを説明したのち、育てられない実母へのケアや、

養親との丁寧な関わり事例を紹介し、活動の意義を伝えました。

米山さんは、企業から寄贈してもらった食品を必要としている施設や団体に無償で配るフードバンク事業を展開する中で出会ってきた方々とのエピソードを交えつつ、「みなさんも賛同から参画へ、ぜひ歩み出してほしい」と呼びかけました。

鹿児島県の沖永良部島で活動する安徳さんは、離島ならではの特性を説明。豊かな自然に囲まれ、子どもたちがのびのびと育まれる環境がある一方で、データをもとに島の子どもの貧困率が本島に比べ高い割合にあることを指摘。そのような中、多様な大人が関わりつつ、多面的に子どもたちを支える様子を紹介しました。

フォーラムの最後には3団体の皆さんと、朝日新聞大阪本社生活文化部記者の山内深紗子さんをパネリストに招いて、パネルディスカッションを開きました。

進行役は、「子どもの貧困対策センター 公益財団法人あすのば」代表理事の小河光治さんに務めていただきました。山内さんは、子どもの貧困問題をめぐり「解決模索型報道」としてのメディアのあり方について言及し、会場からも多くの関心の声が集まりました。そのほか、業界を超えた連携のあり方や、とりわけ優先度の高い問題などについて話しました。

#### ●朝日こどもの貧困助成を贈呈したのは以下10団体です

	団体・グループ名	都道府県	プロジェクトの名称
1	認定特定非営利活動法人 ふじみの国際交流センター	埼玉県	外国人の貧困家庭の子どもや親に対する 支援事例集の作成と、養成講座の開催
2	特定非営利活動法人 心音	鹿児島県	離島の生活困窮世帯の子どもへの学習支援事業
3	特定非営利活動法人多文化共生センター大阪	大阪府	外国人の若年者のライフヒストリー調査 ～貧困の連鎖を防ぐために～
4	一般社団法人 慈有塾	東京都	無料塾事業の拡大
5	あんしん母と子の産婦人科連絡協議会	埼玉県	貧困にあえぐ妊娠出産者に対する支援事業 ～貧困の連鎖を断つために～
6	認定NPO法人 フードバンク山梨	山梨県	フードバンク活動を通じた産官学民連携による 子どもの貧困対策啓発事業
7	NPO法人 P I E C E S	東京都	貧困家庭の子ども・若者を継続的にサポート するコミュニティユースワーカー事業
8	アフターケア相談所ゆずりは	東京都	児童養護施設等退所者の就労支援事業 「ゆずりは工房」
9	i m a c o	大阪府	イマコで朝ごはん！！ ～不登校ゼロを目指して～
10	一般社団法人 日本ファミリーホーム協議会 近畿ブロック	兵庫県	F a m i Z a n i a ～みんなで描こう未来予想図～



## 児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

事業団主催。原田積善会協賛

「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」は、児童養護施設や里親家庭など社会的養護で暮らしながら、大学や専門学校への進学を目指す高校生に向けて応援金を贈る事業で、今年で9回目となります。事業団に寄せられたご寄付や山岡こども応援資金や原田積善会などの皆様の善意に支えられ、今年度から贈呈額と贈呈する人員を増やしました。昨年度は入学時に必要な入学金など最大100万円を29人に贈りましたが、今年度は、入学金(実費)のほかにも、学生応援金として年間60万円(最大240万円)を卒業するまで贈ります。

3月21日、22日に「進学応援金の集い」を開催しました。内定者41人のうち辞退者7人を除く34人が参加しました。21日は東京都江東区の東京スポーツ文化館で、将来の暮らしや学生生活などの未来について語り合うグループワークを行い、楽しみにしていることや不安に思っていることを参加した仲間と共有し、それぞれの未来を一緒に考えました。アドバイザーとして参加したNPO法人社会的養護の当事者参加推進団体「日向ぼっこ」の渡井隆行理事長は、「悩むことがあったら1人で抱え込まないで、誰かに話をしてほしい」と参加者に呼びかけました。



夜は場所を豊洲に移動しBBQをしました。みんなで協力し合いながらお肉や野菜を焼くことで、自然と会話が弾みます。バーベキューコンロを囲みながら談笑し、今日出会った仲間と楽しいひとときを過ごしました。翌日は東京ディズニーシーを観光しながら、さらに交流を深めました。

今年度からは卒業するまで応援金を贈るため、在学中も連絡をとりあっていくこととなります。いつでもサポートができるような体制を整え、またみんなで集うことができる場所をつくっていく予定です。

## 第63回朝日夏季保育大学(長野)

事業団主催。諏訪市共催

長野県、全国社会福祉協議会、長野県社会福祉協議会、長野朝日放送後援。大同生命厚生事業団協賛

朝日夏季保育大学は、保育従事者の技術と教養の向上を図ることを目的にして、1954年に保育先進県と言われた長野県の諏訪市で開催して以来、今日まで継続している事業です。7月22、23日に諏訪市文化センターで開かれ、保育士をはじめ、幼稚園の先生ら、「乳幼児の健やかな育ち」を願うのべ約700人が参加しました。

オープニングは、シンガーソングライターの新沢としひこさん。ピアノやギターを演奏しながら、手話ソングや体操が盛り込まれた贅沢なステージが実現。アンコールでは「にじ」が披露され、



会場は大いに盛り上がり、保育大学が幕開けしました。

その後、元立教女学院短期大学教授の今井和子さんが「子どもたちの自己肯定感を育む保育」をテーマに講演。実際の保育現場の映像などを交えつつ、保育者に必要な視点や、今日の子どもたちの課題や自己肯定感を育むことの大切さについて述べました。



初日の最後は、国立がん研究センター中央病院・緩和医療科ホスピタルプレイスタッフの小嶋リベカさんにご登壇いただきました。演題は「グリーフを抱える子どもにとっての“あそび”～だいじな人を喪失した子ども、親が病気の子どもに寄り添う経験から～」。親を亡くした子どもの心の動きを描いた絵本やご自身の経験を例に、子どもたちの心への寄り添い方や、あそびの意義などを話しました。

2日目は、東洋大学教授の角藤智津子さんが「あたりまえの音楽について、もう一度考える」と題して講演。歌とピアノの演奏を交えた講義から、子どもたちにどのような音楽環境を整えていけるかを学びました。

続いて、横浜市東部地域療育センターの安倍陽子さんに、「保育現場での“気になる子”の理解とかかわり」についてお話いただきました。誰もが安心して暮らしていくために有効な「視覚支援」や「構造化」の内容、家族との連携や現場でできる工夫について、事例をあげながら解説しました。

午後は、白梅学園大学教授の師岡章さんによる講演「子どもらしさを大切に保育」。自身の保育士としての経験をもとに、子どもたちの日常的な行為や情動に焦点をあて、それぞれの子どもらしさを理解し大切に保育のあり方について述べました。

最後の講座は、帝京大学教授の清水玲子さんをコーディネーターに迎え、「ここだから言える本音から保育を考える」をテーマに、初の試みとしてグループワークを行いました。全国から集まった参加者が約50グループに分かれ、保育の悩みや子どもたちへの思いを共有しました。グループワーク終了後は、代表の5グループが話し合いの内容を発表し、活発な意見交換がなされました。



7月22日(金)		7月23日(土)	
10:10   10:30	開校式	9:00   10:30	「あたりまえの音楽について、もう一度考える」 ◆角藤智津子/東洋大学教授
10:30   12:00	「歌は心のともだち」 ◆新沢としひこ/シンガーソングライター	10:45   12:15	「保育現場での“気になる子”の理解とかかわり」 ～その子、その個をいかして～ ◆安倍陽子/横浜市東部地域療育センター、臨床心理士
	昼食休憩		昼食休憩
13:00   14:30	「子どもたちの自己肯定感を育む保育」 ～遊びこそ豊かな学び～ ◆今井和子/元立教女学院短期大学教授	13:00   14:30	「子どもらしさを大切に保育」 ◆師岡章/白梅学園大学教授
14:45   16:15	「グリーフを抱える子どもにとっての“あそび”」 ～だいじな人を喪失した子ども、親が病気の子どもに寄り添う経験から～ ◆小嶋リベカ/国立がん研究センター中央病院緩和医療科ホスピタルプレイスタッフ～	14:45   16:45	ワークショップ 「ここだから言える本音から保育を考える」 ◆コーディネーター 清水玲子/帝京大学教授

## 親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）

事業団主催

17回目となる「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日、有楽町朝日ホールで開催しました。「世界中のこどもたちが」「ともだちになるために」などの名曲を作った中川ひろたかさんが、藤本ともひこさん、鈴木翼さんと結成した新ユニット『お～笑い3人組』と、「音楽とマジックと絵本」という異色の組み合わせで大活躍の大友剛さんが出演。会場には、400人を超える家族連れらが集まり、素敵な音楽とあそびや「お笑い」が融合した盛りだくさんのスペシャルステージを楽しみました。



中川さんと大友さんによる音楽と絵本の時間では「うさぎ野原のクリスマス」や「しずかなクリスマス」など、クリスマスにまつわる歌も披露。その後、藤本さんと鈴木さんも登場して『お～笑い3人組』がそろい、ダンスや遊び歌で会場を盛り上げました。大友さんによるマジックコーナーや絵本の朗読もあわせ、20種類を超える歌やあそびなどが披露され、アンコールでは名曲「ともだちになるために」と「空に手をのばせ」が歌われ、大盛況のうちに幕を閉じました。



## 第33回福祉施設絵画展（名古屋）

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会主催。事業団後援

名古屋市内の児童養護施設や障害児者施設に入所、通所する人の作品を展示する絵画展を7月下旬から8月中旬に市内の地下街ギャラリーなどで開きました。25施設から530点の応募があり、特別賞6点、入選25点、佳作50点が選ばれました。

朝日新聞厚生文化事業団理事長賞は障害児施設「愛松学園」の八森彩姫さんが描いた「ひまわり」が受賞しました。





グリーフキャンプをハワイで実施  
**「キャンプホクレレ in HAWAII 2017」**

事業団主催。米国キッズ・ハート・ツアー・ハワイ協力

震災で大切な人を亡くした子どもたちが、自分の内面にあるグリーフ（喪失・悲嘆）に向き合うことに寄り添うグリーフ事業の一環として、2017年3月末から4月にかけて、米国ハワイ州で4泊5日（現地3泊4日）のキャンプを実施しました。

●ホクレレに込めた思い

「ホクレレ」はハワイの言葉で「流れ星」を意味します。震災で大切な人を失いグリーフを抱えながら生きる子どもたちの願いが少しでも叶うようにと、「流れ星に願いを」の思いにちなんで名付けました。

ハワイキャンプの第1弾は前年の2016年3月に44人で実施。当初定員30人で募集をしたところ予想を超える124人の応募があり、残りの80人はやむなくお断りすることとなりました。今回はその中から震災で親や兄弟・姉妹を亡くした小学校4年生から中学校3年生の20人が参加しました。3～6人ごとにグループとなり、各地での集合場所（盛岡、一ノ関、仙台）からハワイでのキャンプ終了まで生活を共にしました。

●大自然の中でのあそびとグリーフ

現地では昨年に引き続き、グリーフサポートの拠点キッズ・ハート・ツアー・ハワイの全面的な協力のもと、キャンプを行いました。まず、「参加している子どもみんなが大切な人を亡くした共通の経験を持つ」という環境設定（オープニングサークル）を行ったうえでキャンプを始めました。「大人と一緒にいる」「固いものはなげない」などのルールもみんなと一緒に確認することにより、子どもたちにとって安全と思え、安心できる仲間や大人に囲まれて過ごすことによって、はじめて自分自身のグリーフに向き合うことができます。



海ではスタンドアップパドル（サーフボードの上に立って乗り、パドルで海をこぐスポーツ）やカヌー、シュノーケリングで遊んだり、ウクレレ、フラダンスなどの芸術にふれたり、シーライフパークでイルカと触れあうプログラムに参加をしたり、同じく親などの大切な人を失った現地ハワイの子どもたちと交流したりと、日本ではできない盛りだくさんのプログラムを経験しました。中には「初めて海に入った」という子もいて、「最初はいろんなことを思い出して怖かったけど、とても楽しかった」と透き通った青い海に入り、笑顔を見せていました。

多彩なプログラムの合間には、キャンプ場の中で思い思いの自由な時間を過ごすこともできま

した。バスケットやサッカーで汗を流す子もいれば、パラシュートの紐を編んでアクセサリを作る子も、ベンチに座りながら海を眺めてゆっくりと過ごす子もいて、それぞれがハワイの自然に包まれながら特別なひとときを過ごしました。



### ●星空のもとでトーキングタイム

現地に着してから2日目の夜。無数の星が光り輝く夜空の下で「トーキングタイム」と名付けたグリーフプログラムを行いました。ハワイの子どもたちも交えて、グループごとに大切な人を亡くした時の気持ちや、その人との思い出などを話します。専門家スタッフが寄り添う中、「話したくないことはパスをしてもいい（言わなくてもいい）」「ここで聞いた話は外では話さない」などの子どもたちにとっての安全なルールを設け、自分自身のグリーフと向き合うことのできる場になりました。言葉につまり、涙する子もいましたが、グループの仲間とのそれぞれの経験や想いを共有できたことについて「最初は話すことに抵抗があったけど、話し終わったらみんなで抱きあって、頑張ったねと言い合って励まし合った」「ずっと前から友達だったみたい」「話をしてスッキリした」などの声を、多くの子どもたちから聞くことができました。



### ●滑らかな石に思い出を込めて

最終日の夜、1人1つ、表面がつるつるした石が配られました。最初はゴツゴツとしていた石が川の流れて他の石とぶつかり合っていくうちに角がとれ滑らかになったものです。これは、最初は知り合いがいなく、不安や緊張でカチコチな気持ちだった子どもたちの心が、仲間と過ごすうちに穏やかになったという経験を象徴するものです。好きな色のペンを使いながら、キャンプで経験をしたことを描き、楽しかった思い出をその石に詰め込みました。そして、キャンプファイヤーを囲みながら参加者全員で1つの大きな円を作り、それぞれの石に込めた想いをみんなで共有しあい、自身のグリーフに向き合うキャンプを締めくくりました。

### ●ハワイの人のたくさんの思い

昨年同様、ハワイの多くの人たちが心から歓迎してくれました。まずは、ハワイ受け入れの中心となったキッズ・ハート・ツアー・ハワイ創設者のシンシア・ホワイトさんとプログラムディレクターの伊藤ヒロさん、ファシリテーターのみなさん。日本の子どもたちとともに3泊4日を過ごしたハワイの子どもたちやハワイ在住の日本人スタッフ、とびきり楽しいプログラムを提供してくれた海に関わるプロ集団「ナカマカイ（ハワイのコトバで「海の子どもたち」の意）」の人たち、素晴らしい演奏を聴かせてくれ



たウクレレミュージシャンにフラダンス教師など、たくさんの方々の思いが詰まったキャンプでした。子どもたちからは、「ハワイの子どもたちと仲良くなれた。遠いけどこれからも繋がっていると考える」「今度は日本に招待して恩返しをしたい」「ハワイの人と話すことで、自分の意見を積極的に話すことが重要だと気づけた」などハワイの人たちへのお礼の言葉がたくさん寄せられました。

## 【キャンプの主な日程】

	日		内容
1	3月31日(金)	午後	・盛岡、一ノ関、仙台集合、出発 ・成田国際空港発
	3月31日(金)	午前 午後 夜	・ホノルル空港着 ・歓迎会(キッズ・ハート・トゥー・ハワイのオフィス) ・キャンプ場へ ・ビーズアクセサリー作り ・自由時間 (アクセサリー作り、バスケットなど)
2	4月1日(土)	午前 午後 夜	・ポーカーベイビーチ シュノーケリング、カヌー、 パドルサーフィンなどの海のプログラム ・キャンプ場へ ・自由時間 (ヨガ、クラフト、ウクレレレッスン、バレーなど) ・トーキングタイム
3	4月2日(日)	午前 午後 夜	・シーライフパーク イルカと触れあうプログラム イルカのショー、買い物 ・ウクレレコンサート ・フラダンス ・海水浴 ・キャンプファイヤー
4	4月3日(月)	午前	・バスでホノルル空港へ移動 ・ホノルル空港発
5	4月4日(火)	午後 夜	・成田国際空港着 ・仙台、一ノ関、盛岡着、解散

## 朝日のあたる家(岩手)

事業団、NPO法人 福祉フォーラム・東北主催

朝日新聞厚生文化事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金によって2013年2月、岩手県陸前高田市米崎町に建設した地域活動拠点が「朝日のあたる家」です。「福祉フォーラム・東北」(新田國夫会長)のスタッフが常駐し、運営をしています。木造平屋建て床面積約240平方メートルの建物には、大小4つのホールや和室、キッチンがあり、グランドピアノやプロジェクターなども備えています。15年5月に、敷地内の小高い丘の上につくった「虹の架け橋」というモニュメントは、子どもたちに親しみやすいシンボルとして愛されています。

### ●地域包括ケアの実践

「朝日のあたる家」では、イベント型のプログラムだけでなく、地域住民と一緒に開催するプログラムで、住民の生活をサポートし、活動を応援しています。例えば、地域の子育て支援センターとの共同で行う親子の交流会「お出かけ広場」を通して、親子をサポート。高田町に拠点をもつ社会福祉法人燦々会と協力をしながら障害のある人の活動を応援し、開設当初から開催している「認知症カフェ」も、15年度からリニューアルし、「アップルカフェ」という名前をつけて継続して開催しています。16年度は、毎月第1火曜日にカフェを開催し、毎回30人程度の方々に参加いただきました。気軽に集まり、認知症のことを考えられる場として地域に定着しています。



### ●行政との連携

また「介護予防教室」を地域包括支援センターと一緒に開催するほか、17年度は「ミニデイサービス」を陸前高田市から受託しました。今後は仮設住宅に残された独居の高齢者や、災害公営住宅で外との関係が途切れがちになってしまう人への支援にも力を入れていく予定です。

「朝日のあたる家」の利用者は開設以来延べ27200人に。地域のみなさんの生活に寄り添いながら、引き続き現地に密着した支援を続けます。

## こども応援金

事業団主催

震災で両親を亡くした子ども(孤児)に「東日本大震災こども応援金」を届けています。金額は未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として、対象の子どもたちに直接、渡しています。



11年7月から贈呈を始め、17年3月末までに、対象と見込んできた220人の9割を超える202人に総額4億8850万円を贈ることができました

### こども応援金 贈呈者数の内訳

(2017年3月末現在 県名などは被災時)

	岩手	宮城	福島	合計
未就学児	8	8	3	19
小学生	34	45	10	89
中学生	24	21	2	47
高校生	16	27	4	47
合計	82	101	19	202

## 大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーフサポート」

事業団主催。米国キッズ・ハート・トゥー・ハワイ協力など

津波や地震でさまざまな経験をした子どもたちの心の衝撃は、周囲からは見えにくく、本人でさえ気づかないまま、一人で抱えていることが少なくありません。こうした子どもたちには、遊びや会話を通して、時間をかけて自分自身の気持ちを解きほぐしていく癒やし(グリーフケア)が必要です。

16年度も米国や日本の子どものグリーフケアに大きな影響を与えている米国ハワイ州のキッズ・ハート・トゥー・ハワイの協力のもと、地震と津波を体験した子どもと震災によってたいせつな人を亡くした子どもたちを対象にしたグリーフサポートプログラムを陸前高田市と東松島市で開催しました。



### ●地震と津波を体験した子どもと大切な人を亡くした子どもの「あそびのいえ」

「あそびのいえ」は、子どもたちが安心と希望を持って暮らすために、あそびを通して自分自身のさまざまな感情を受け入れ、自分なりに整理していくプロセスをともに歩むグリーフケアの場です。16年度は陸前高田市で2回、東松島市で2回開催しました。

プログラムは、津波や地震のことを子どもたちが自由に表現できるように、子どもにとって安全な環境や状況を整えます。プログラムの冒頭ではそのためのルールを子どもと一緒に確認したあと、共通する体験をした子ども同士による集まりであることを共有。次いで自分自身に気持ちを向ける準備のために、参加する全員が自己紹介と合わせてそれぞれの喪失体験などを話します。話をする事自体が目的ではないので、話したくない場合は“パス”ができ、話したくないという気持ちも大切にされます。

この始まりの会の後に遊びの時間が始まります。そこでは、風船でバレーボールをしたり、ブロック遊びをしたり、ビーズでアクセサリを作ったり、体験を語ったりと思い思いの時間を過ごします。

終わりの会では、この日のプログラムが修了し、また日常に戻ることを全員で輪になって確認します。自分の感情に触れる意識の高い状態で日常に戻らないことも、子どもたちの安全のためには大切なことです。

また「あそびのいえ」のほかに、陸前高田市内や東松島市内の小学校の学童クラブを訪問し、キッズ・ハート・トゥー・ハワイの伊藤ヒロさんの指導のもと、ブレスレットの制作やコアの木を使った工作をしました。

開催日	地域	プログラム	開催場所
4月19日	東松島市	あそびのいえ	小野市民センター
4月20日	東松島市	学童訪問	矢本東小学校
4月21日	陸前高田市	あそびのいえ	朝日のあたる家
4月22日	陸前高田市	学童訪問	米崎小学校
6月13日	陸前高田市	学童訪問	気仙小学校
6月14日	陸前高田市	あそびのいえ	朝日のあたる家
6月15日	東松島市	あそびのいえ	赤井市民センター
6月16日	東松島市	学童訪問	宮野森小学校

### ●「キャンプホクレレ in HAWAII」グリーンフォローアップワーク

「東日本大震災から5年」を迎えるのを機に、2016年3月25日から29日まで、震災で大切な人（親あるいは兄弟・姉妹）を亡くした子どもたち44人とともに米国ハワイで実施した「キャンプホクレレ in HAWAII」の帰国後のグリーンの集いを4月23日と6月12日に陸前高田市の朝日のあたる家で開催しました。

キャンプで撮影した動画や写真を見ながら、ハワイの素晴らしい環境の中で行った楽しいプログラムや、現地での専門家スタッフらによるグリーンワーク、またハワイ在住のグリーンを抱える子どもたちとの交流を通して、自分自身の内面に向き合い気づいたことや体験したことを整理するワークを行いました。

## 子どもグリーンサポートトレーナー研修

事業団主催。米国キッズ・ハート・トゥー・ハワイ協力

グリーンを抱えた子どもたちに寄り添うために、全国各地ですでにグリーンサポートを実践している人を対象に、2014年11月から2年にわたる全4回の「トレーナー養成研修」を行いました。講師はキッズ・ハート・トゥー・ハワイ創設者のシンシア・ホワイトさんとプログラムディレクターの伊藤ヒロさん。アシスタント講師



は「だいじな人を亡くした子どもの集まり」のファシリテーターの小嶋リベカさんです。

最後となった4回目の研修は6月18、19日に朝日新聞東京本社で開催。北海道、宮城県、東京都、福岡県の団体などから10人が参加しました。初日は各々が考えているファシリテーター養成講座のスケジュールやグリーンワークに関するアクティビティーを紹介。最終日はボランティアの役割と責任についての講義のほか、質疑応答およびディスカッションで意見交換をし、2年間に渡る研修を締めくくりました。

今回参加したみなさんが、グリーンサポートトレーナーとして、各地での取り組みをさらに拡充するとともに、自らが指導者となって後継を育て、質の高いグリーンケアが全国に広がることを期待しています。

## 被災地ビジット（岩手・宮城・青森17カ所）

事業団主催

東日本大震災のため、不自由で不安な生活を強いられている方々が少しでも心豊かなひとときを過ごせるように「被災地ビジット」を実施しました。千住真理子さん、川島成道さん、おおたか静流さん、大友剛さん、山口ともさんらとともに岩手県、宮城県、青森県の被災された方々を訪れました。

### ●おおたか静流さん、大友剛さん、山口ともさん

5月17、18日は、おおたか静流さん、大友剛さん、山口ともさんの3人が、岩手県の陸前高田市を訪問し、学校や高齢者施設など4か所で「ともとも・タケポン・シズリンのぶったまげマジカルショー」を開催しました。市内の広田小学校の学童クラブ「わかめっこクラブ」への訪問では、新聞紙、貝がら、風船など、身近なものを使ったアイデア満載の廃品打楽器演奏に、子どもたちも釘付けに。その後訪問した朝日のあたる家では、学校帰りの中学生や近隣にお住まいの顔なじみの方が集い、多世代での和気あいあいとした会になりました。翌日は、デイサービスセンター、障害者就労継続支援事業所、学童クラブの皆さんに音楽を届けました。



また、12月8、9日はおおたかさんと大友さんに協力していただき、青森県の八戸市と三戸郡を訪問。特別養護老人ホームや保育園、小学校、なかよしクラブでミニコンサートとマジックを披露しました。

### ●千住真理子さん、山洞智さん

9月6日には、バイオリニストの千住真理子さんと、ピアニストの山洞智（さんどう さとし）さんが、宮城県気仙沼市廻館の高齢者施設「おおしまハーティケアセンター」を訪問し、島で暮らすお年寄りら約40人が参加しました。その後、同市下八瀬の特別養護老人ホーム「恵心寮」

を訪問。利用者ら60人が千住さんの演奏を楽しみました。

千住さんらは11月30日と12月1日にも、南三陸町の災害復興公営住宅3カ所や、保育所を訪問。仮設住宅から復興住宅への住み替えが進み、新しいコミュニティでの生活が始まる中、住人の皆さんが集う機会になればと、南三陸町社会福祉協議会の協力を得てコンサートが実現。千住さんは入所者の皆さんへ「耳だけでなく体全体で受け取っていただけるのが、クラシック音楽の良いところ」と語りかけ、クライスラーの「愛の悲しみ」「愛の喜び」などを披露しました。「戸倉復興公営住宅」では訪問した日にちょうど町内会が活動を始めたとのことで、町長を務める男性(75)は「町内会の門出に素晴らしい時間だった。今日の思いを胸に、これから住民同士力を合わせていきたい」と力強く思いを語りました。



#### ●川島成道さん、恵村友美子さん

バイオリニストの川島成道さんとピアニストの恵村友美子さんは、7月5、6日に岩手県の大船渡市を訪問し、保育園や特別養護老人ホームでミニリサイタルを開きました。5日は保育園やデイサービスセンターを訪問。「JAおおふなと・デイサービス立根」では、演奏が始まる前から「こんな機会はめったにないから、とても楽しみにしていた」という声がかかられました。「スマイル」や「ムーンリバー」などの映画音楽を含む9曲が披露され、デイサービスセンターに通う女性(80)は、「聴き入ってしまった。一生忘れられない一日になった」と感動した面持ちでした。



翌6日は、「大船渡保育園」を訪問し、園児や地域の方を含む約135人が参加。川島さんは「バイオリンの弦は何の動物のしっぽかな」と言ったクイズも交えつつ、「トロイメライ」や「チャルダッシュ」などを演奏しました。子どもたちは音の速さに驚きを隠せず歓声をあげたり、体を動かしたりして、一緒に演奏を楽しんでいました。演奏終了後には、子どもたちが元気に園歌を歌い、お礼の気持ちを伝えてくれました。

16年度も、福祉フォーラム・東北、大船渡市役所、南三陸町社会福祉協議会、青森県社会福祉協議会など、現地で活動している皆さんのご協力をいただき、計17カ所を訪問しました。11年度からの通算の訪問先は128カ所になりました。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地 域	訪問先
1	おおたか静流 大友剛 山口とも	5月17日	岩手県陸前高田市	広田小学校の学童クラブ「わかめっこクラブ」
2		5月18日	岩手県陸前高田市	障害者就労継続支援事業所あすなろホーム
3		5月18日	岩手県陸前高田市	高田小学校学童クラブの「やどかりクラブ」 「リトルクラブ」
4		5月18日	岩手県陸前高田市	高寿園・東部デイサービスセンター
5	川島成道 恵村友美子	7月5日	岩手県大船渡市	蛸ノ浦保育園
6		7月5日	岩手県大船渡市	JAおおふなと・デイサービスセンター立根
7		7月6日	岩手県大船渡市	大船渡保育園
8	千住真理子 山洞智	9月6日	宮城県気仙沼市	高齢者施設おおしまハーティケアセンター
9		9月6日	宮城県気仙沼市	特別養護老人ホーム恵心寮
10		11月30日	宮城県南三陸町	志津川西復興公営住宅
11		12月1日	宮城県南三陸町	志津川東復興公営住宅
12		12月1日	宮城県南三陸町	戸倉復興公営住宅
13		12月1日	宮城県南三陸町	志津川保育所
14	おおたか静流 大友剛	12月8日	青森県八戸市	むつみ保育園
15		12月8日	青森県八戸市	南郷小学校
16		12月8日	青森県八戸市	新井田西なかよしクラブ
17		12月9日	青森県三戸郡	特別養護老人ホーム鶴亀荘

## 東日本大震災救援事業へのご寄付、16年度は950万円

朝日新聞厚生文化事業団の東日本大震災救援事業へ16年度に寄せられたご寄付は、955万8676円に上りました。

東日本大震災救援募金(震災直後から12年3月末まで実施)も含めたご寄付の累計は17年3月末現在で約9万件、総額37億2429万3987円となりました。

年度別では、10年度が17億1703万9856円、11年度が17億9627万3050円、12年度が1億1362万4052円、13年度が4572万1384円、14年度が2359万9869円、15年度が1847万7091円でした。

## 障 害 の あ る 人 の 福 祉

### 自閉症カンファレンスNIPPON 2016 (東京)

自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会、事業団主催  
厚生労働省、文部科学省、日本自閉症協会、日本知的障害者福祉協会後援

自閉症(ASD)の人たちへの支援の会議として国内最大級の「自閉症カンファレンスNIPPON 2016」を8月20日、21日に東京都新宿区の早稲田大学で開催しました。15回目の今回、全国から福祉・教育などの支援者や家族約1,000人が参加しました。

当事業団は、米国ノースカロライナ大学で開発された包括的な自閉症支援のシステム「TEACCHプログラム」による5日間のトレーニングセミナーを1989年に日本で初めて開催したのをはじめ、人材育成のための研修留学生の派遣、DVDやガイドブックの制作と普及、日本各地での講演会の開催など、自閉症支援にかかわる人や地域づくりのための数々の事業を実施しています。



今回のカンファレンスには米国ノースカロライナ大学元TEACCH部部长ゲアリー・メジボフ教授と、同州GHA自閉症サポートのドーン・アレン代表が来日。自閉症支援のための新情報や家庭へのサービス、学校コンサルタント、就労支援など、同州で行われている多岐多様な支援実践が紹介されました。このほか、日本国内の実践報告を聞く

分科会やポスターセッション、初心者向けの入門解説講座など、今年も盛りだくさんのプログラムが行われた2日間でした。

このカンファレンスは、TEACCHプログラムを日本に紹介した佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授を中心に、国内で活躍する専門家や実践家で構成する実行委員会によって企画・運営され、延べ100人を超える若いボランティアスタッフによって支えられて開かれています。今後も自閉症の人への支援の人の輪が全国により一層広がり、充実することを目標に、その一助となるよう努めます。

### メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」(高崎、広島、福岡)

事業団など主催

ノースカロライナ大学のゲアリー・メジボフ教授が「自閉症カンファレンスNIPPON」のために来日するのに合わせて開催する講演会「自閉症を正しく理解すること～自閉症



の支援で最も大切なこと」を、今年は8月23日に高崎市・高崎シティギャラリーコアホール、27日に広島市・JMSアステールプラザ中ホール、28日に福岡市・エルガーラホール大ホールで開催しました。「自閉症の人たちの学習スタイル～正しく理解する」「構造化された指導～自閉症の学習スタイルに合わせた支援」「自閉症の支援で最も大切なこと～TEACCHプログラムのコア・バリュー」といった講義に3会場合わせて約1,020人が耳を傾けました。

各会場とも厚生労働省、文部科学省後援で、高崎会場は、群馬県自閉症協会、当事業団主催、群馬県、高崎市、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、ぐんぐんの後援。広島会場は、広島自閉症協会、当事業団主催、広島県、広島市、広島県教育委員会、広島市教育委員会、広島県発達障害者支援センター、広島市発達障害者支援センターの後援。福岡会場は、福岡県自閉症協会、福岡市自閉症協会、NPO法人それいゆ、当事業団主催、福岡県、福岡市、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会の後援。

### 第33回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト(東京)

全日本ろうあ連盟、事業団、朝日新聞社主催。厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援。東京都聴覚障害者連盟協力、NEC協賛

手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的に1984年から始まった「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」。33回目の今回は、8月27日に東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開催しました。全国の応募者69人から原稿と映像の審査で選ばれた高校生10人が約500人の来場者の前で、手話と音声と同時に使ったスピーチを披露し、日ごろの練習の成果を競いました。

第1位には熊本県立阿蘇中央高校2年、井麻優香さんが輝きました。井さんは「生きる」と題して、今年4月の熊本地震で体験した恐怖と不安を訴えました。「当たり前なのが、どれだけ恵まれていることなのか気付かされた」と来場者の前で自分の思いを力強く述べました。

2位には静岡サレジオ高校1年の松本蒼空さんが選ばれ、「情報保障の大切さ」という演題で、耳の聞こえない祖父とのエピソードを交えながら、人とのつながりによる情報共有の大切さを主張。3位の愛知県立蒲郡高校2年、加藤珠羅さんは「そんなに我慢しなくていいんだよ」と題して、家族の絆や手話にかける思いを語りかけました。



1位の井麻優香さん



2位の松本蒼空さん



3位の加藤珠羅さん

入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンやタブレットなどの賞品が贈られました。また、参加者全員にNECからコンテストの録画DVDが贈られました。

33回目となった今回は秋篠宮家の長女眞子さまが出席。開会式では全てのスピーチを手話を交えて行い、「発表される皆様がご自分の思いや考えを、豊かな手話で表現なさるのを楽しみにしております」と出場者にエールを送りました。

特別プログラムでは、NHK手話ニュースキャスターの那須英彰さんが「手話と私～手話をもたらしてくれたもの～」をテーマに、手話の奥深さについて講演。東日本大震災や原爆投下の様子を手話のみで訴えかける場面もあり、迫力ある表現で観客を引きつけました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、吉田正則・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、栗野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、石橋大吾・全日本ろうあ連盟理事、服部芳明・全日本ろうあ連盟理事、板垣哲也・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。

3位までを除く入賞者と出場者は次の通りです。(敬称略)

奨励賞＝幸喜樹里(沖縄県・仙台育英学園高校広域通信制課程 I L C 沖縄2年)、栗栖啓人(大阪府立松原高校2年)

出場者＝梅田純花(大分県・楊志館高校3年)、駒田菜々香(神奈川県立高浜高校2年)、三上真澄(北海道・石狩翔陽高校2年)、笠井溪太(山梨県・身延山高校3年)、坂本梨帆(愛媛県立長浜高校1年)



## 高次脳機能障害講演会 「高次脳機能障害を生きる」～当事者と家族～(東京・大阪)

事業団主催。日本脳外傷友の会、大同生命厚生事業団ほか後援

交通事故や病気で脳を損傷した高次脳機能障害の当事者とその家族が、障害とどのように向き合っていけばよいのか、支援者とともに考える講演会を大阪と東京で開きました。大阪では9月4日、大阪市西区の大阪YMCA会館で201人が参加し、東京では10月30日、中央区の浜離宮朝日小ホールで153人が参加して行われました。

## ●大阪

まず、東京福祉大学社会福祉学部教授の先崎章さんが、基調講演「高次脳機能障害を生きる」で、当事者と家族間では不満やストレスがたまりやすいので、時には当事者を外の機関に委ね、家族が自分自身の時間をもつなど、余裕のある生活づくりの必要性を強調しました。続いて高次脳機能障害当事者の小林春彦さんと茅原ゆかりさんが登壇、「私の言いたいこと」と題し、自身の受傷体験を語り、見えない障害が故に周囲とのギャップを感じ、もがき、苦しみ、自分らしい生き方を模索してきた体験を話してくれました。

休憩をはさんで、橋本圭司・はしもとクリニック 経堂院長の進行で、小林さん、茅原さんによる鼎談を行いました。橋本さんからの「受傷後の自分の居場所は」との問いに、小林さんは「時間の経過とともにますます障害を受容できなくなる自分がいる。失敗の経験を通して自分の居場所を見つけるのでしょうか」と語り、茅原さんは「アートこそが自分自身を認めてもらえる唯一の居場所」と答えました。



続いて橋本さんを司会に、家族に当事者がいる高次脳機能障害サポートネットひろしま理事長の浜田小夜子さんと堺脳損傷協会会長の納谷保子さん、先崎章さんによるシンポジウム「共に生きる～家族の支え」が行われました。

## ●東京

日本障害者リハビリテーション協会顧問の上田敏さんが、「当事者と家族への理解と支援」と題し基調講演を行いました。上田さんは、リハビリは障害を減らすというマイナス面の減少を狙うより、当事者の潜在能力を見つけて伸ばすというプラス面の増大を図るべきだと強調。次に当事者として、大阪講演会にも参加した、東京大学先端科学研究センター「D O - I T J a p a n」リーダーを務める小林春彦さんと、高校で事務員を務める石黒順子さんが登壇。



小林さんは、今も視野狭窄や左半側無視といった障害が残りますが、外見からは非常にわかりにくいので、カムアウトするため、あえて左手だけに白い手袋を付け、白杖も持っていると説明しました。しかし、白杖を持ったままスマートフォンを覗いていたりすると、周りの人からは「本当は見えているのでは？」と逆に疑われたりするなど、理解しにくい障害の難しさを語り、「障害」の大小と「困難」の大小は必ずしも比例しない、と問題提起をしました。石黒さんは、犬と散歩中に後から車にはねられ、40日間意識不明の重体に陥った結果、高次脳機能障害の後遺症が残りました。しかし、「今の自分のためだけでなく、未来の自分のために頑張る」という気持ちで仕事に励んでおり、手を動かすリハビリを兼ねて始めた趣味の陶芸も、人から譲って欲しいといわれるまでに上達しました。講演会当日は、石黒さんの陶芸作品の写真を並べたコーナーも会場の脇に設

けられました。

最後に、はしもとクリニック経堂院長の橋本圭司さんを交え、小林さん、石黒さんで鼎談「見えない障害を受け入れて生きる」が行われ、障害がありながらどのように前向きに生きるかについて話し合われました。

## 講演会「あなたのうつ 私のうつ となりのうつ」 ～てんてん、ツレと考える～(福岡)

事業団主催。地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援。

夫のうつ闘病生活を描き大ヒットとなった漫画「ツレがうつになりまして。」の著者細川貂々(てんてん)さんと「ツレ」ことてんてんさんの夫で実際にうつ病を経験した望月昭さん、精神科医の大野裕さん(一般社団法人認知行動療法研修開発センター理事長)を講師に招き、うつ病になってもその人らしく生きられるよう、本人や周囲の人にできることを考える講演会を、福岡県中小企業振興センターで4月2日に開催し約50人が参加しました。

大野さんが「うつ病との上手な付き合い方」について講演した後に、「てんてん」さんと「ツレ」の二人を交えてディスカッションを行いました。夫の「ツレ」がこれまでの生き方や、考え方を変えていったプロセスや、その「ツレ」に寄り添い支え続けた「てんてん」の気持ち、その存在がいかに大切だったかをうかがいました。「てんてん」さんのサポートや声掛けのタイミングが素晴らしかったことを例にあげながら、「うつ病の人を支えるには、周りの人の力やコミュニティの力が大切」という大野さんの言葉を実感できた講演会になりました。



## 視覚障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)

事業団、聖明福祉協会主催

視覚障害のある大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」の第48期貸与式が7月4日、東京都内のホテルで行われ、奨学生には筑波技術大学の杉崎信清さんが選ばれました。杉崎さんは、保健科学部情報システム科でプログラミングや統計学などを学んでおり、将来は、障害の有無に関わらず、誰にでも扱いやすいシステムを作ることが目標です。

式典では、聖明福祉協会の本間昭雄理事長が「歴代貸与者には、勉強に励み、それぞれの分野で活躍しているOBが多くいる。ぜひ夢に向かって努力してほしい」と祝辞を送りました。朝日新聞厚生文化事業団の是永一好事務局長が目録を



手渡した後、厚生労働省の吉田正則自立支援振興室長が「しっかりと勉強し、将来の目標に向かって有意義な学生生活を送ってください」とお祝いの言葉を贈りました。

この奨学金は、視覚障害の学生を対象として1969年に日本で初めて設けられ、今年度の杉崎さんで貸与者の総数は207人となりました。奨学金は今まで月3万円でしたが、今年は貸与者に選ばれたのが杉崎さん1人ということもあり、月4万円に増額されました。

## 第62回耳の日記念行事

日本耳鼻咽喉科学会主催。厚生労働省、文部科学省、日本医師会、事業団など後援

日本耳鼻咽喉科学会は、ろうや難聴の予防と聴覚障害者に対する適切な指導・治療を図るため、3月3日を「耳の日」と定めています。この日を中心に各都道府県にある日本耳鼻咽喉科学会の地方部会が、聴覚や音声の重要性についての啓発活動や無料相談会などを開催しています。

16年度も同学会東京都地方部会が、補聴器を上手に使えない人や日常会話が聞き取りにくい人たちを対象にした無料相談会を、有楽町マリオン11階の朝日スクエアで3月5日に開催しました。専門医らが約70人の相談に応じました。

## 「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京)

内閣府主催。事業団ほか後援

地域や職場・学校などで誰もが共に支え合って暮らす「共生社会」の実現を目指して、障害のある人とない人との心のふれあい体験を綴った「心の輪を広げる体験作文」と、障害のある人に対する国民の理解を広めるための「障害者週間のポスター」の募集が、16年度も行われました。作文とポスターで最優秀賞(内閣総理大臣賞)に選ばれた受賞者の表彰式が12月2日、中央合同庁舎の講堂で行われました。受賞した5人には賞状と副賞が贈られました。受賞者は次のみなさんです(敬称略)。

【作文】小学生=山口県宇部市立川上小学校2年 益田幸奈▽中学生=大阪府関西創価中学校  
3年 常盤美海▽高校・一般=鳥取県 山崎嘉通

【ポスター】小学生=徳島市加茂名南小学校1年 岡本彩佐▽中学生=さいたま市立大成中学校  
1年 榎本雛

## 第35回肢体不自由児・者の美術展(東京、福岡)

日本肢体不自由児協会など主催。厚生労働省、文部科学省、事業団など後援

肢体不自由児・者の生きがいつくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的に、「第35回肢体不自由児・者の美術展」が12月14日から17日まで東京芸術劇場(東京都豊島



区)の5階ギャラリーで開催されました。この美術展には、全国の肢体不自由児・者から合計734点の応募があり、その中から選ばれた入賞作品92点(特賞24点、優秀賞39点、佳作賞29点)が展示され、初日には入賞者の表彰式も行われました。当事業団からは、特賞のうち、2作品(絵画、書)に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。同展は全国各地を巡回して実施され、17年3月6日から12日まで、福岡市中央区天神の福岡市役所でも開催されました。入賞者のうち、主な特賞は次のとおりです(敬称略)。

【厚生労働大臣賞】絵画 安田岳央(鹿児島県立南薩養護学校高等部1年)▽書 村山宏(新潟県・十日町市身体障がい者福祉センター)

【文部科学大臣奨励賞】書 中村隼大(東京都・筑波大学附属桐が丘特別支援学校小学部4年)▽コンピュータアート 三原裕輝(福岡市立南福岡特別支援学校高等部1年)

【東京都知事賞】絵画 渡辺美保(東京都・加賀福祉園)▽書 神浦江咲莉(東京都・筑波大学附属桐が丘特別支援学校小学部1年)

【朝日新聞厚生文化事業団賞】絵画 小牟田大樹(鹿児島県立出水養護学校小学部3年)▽書 森山彩乃(鳥取県立皆生養護学校中学部1年)

## 第51回名古屋市障害者作品展示会

名古屋市身体障害者福祉連合会主催。事業団など後援

名古屋市障害者作品展示会が17年2月7日から12日まで、名古屋市瑞穂区の市博物館で開催されました。障害のある4歳から85歳までの人が5部門330点(書道74点、絵画121点、写真27点、手芸54点、工芸54点)を出品しました。

5部門の優秀作品には当事業団が「朝日賞」の楯と賞状を贈りました。会期中に家族や友人ら870人が訪れました。

## 第37回障害者歩くスキーの集い(札幌)

事業団、朝日新聞北海道支社主催。三菱電機協賛

障害のある人もない人も一緒にスキーを楽しむ「第37回障害者歩くスキーの集い」を、札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で17年1月15日に開催しました。

青空が広がる中、1キロ、3キロ、5キロ、7キロの4コースに分かれて計170人が参加し、それぞれのペースでゴールを目指しました。

軽度の知的障害がある札幌市西区の40代の女性は3キロを歩き、「よく晴れていて気持ちよかったです。楽しかったです」と笑顔で話していました。





## 第37回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(宮崎)

九州車椅子バスケットボール連盟、事業団主催

第37回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が、12月3日、4日、宮崎県宮崎市の市総合体育館で開かれ、九州・沖縄から10チームが参加しました。注目はこの大会で3連勝中の「佐世保WBC」(長崎)が、さらに連覇を重ねるか、それとも連覇阻止に燃える、他チームの挑戦が実を結ぶかどうかに関心があてられました。決勝は昨年と同一カード「佐世保WBC」と「福岡breeze」の対戦となりました。両雄相譲らず、最後の一球まで目を離せない試合展開となりましたが、結果は「佐世保WBC」が53対51で勝利。4連覇を達成しました。上位2チームは17年5月に東京で開催予定の全国大会への出場権を獲得しました。



## 第28回九州車いすツインバスケットボール選手権大会(大分)

九州車椅子バスケットボール連盟、九州車椅子ツインバスケットボール委員会主催。事業団共催

第28回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は2017年1月28、29日の両日、大分県別府市の市総合体育館で開催されました。福岡、熊本、大分、長崎、沖縄の5県から計10チームが参加しました。ツインバスケットボールは日本で考案された競技で、フリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあるのが特徴です。高低2つのゴールがあることで、障害の重い選手もシュートを打つことができ、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮できる競技です。決勝戦では博多パトラッシュ(福岡)が昨年の準優勝チーム熊本マウゴッツと対戦、多くの声援の中で両チームの攻防が続き、63対43で博多パトラッシュが勝利し3度目の王者に輝きました。



## 高 齢 者 の 福 祉

### AD I 国際会議プレイベント (東京、大阪)

事業団、朝日新聞社、認知症の人と家族の会共催

2017年4月26日～29日に京都市左京区の国立京都国際会館で開催される「第32回国際アルツハイマー病協会 (AD I) 国際会議」のプレイベントとして、厚生文化事業団では認知症の人と家族の会、朝日新聞社の3者共催の講演会、シンポジウムを2016年6月と2017年2月に開催しました。AD I 国際会議は世界各国から医療・介護関係者、認知症患者や家族らが参加し、研究やケアなどの取り組みについて意見を交わす会議で、認知症の人と家族の会などが主催し、日本での開催は13年ぶり、2回目です。朝日新聞厚生文化事業団では、これを機会にこれまで以上に認知症や認知症の人にとってやさしい街づくりとは何かということ、広く社会のみんなで考えていこうという思いがありました。

#### ●講演会「君はひとりぼっちじゃない」

ドラえもんの声優として活躍した大山のぶ代さんが認知症になったということは、テレビでも大きく取り上げられ、ニュースになりました。国民的人気の大山さんの介護について、夫で俳優の砂川啓介さんに率直に語ってもらえれば、一般の人にも認知症や介護について関心を寄せてもらえるのではないかと思い講演会を実施しました。



大山さんは2012年、アルツハイマー型認知症と診断されました。診断後も「私、ここ(自宅)にいたい」と話し、砂川さんは旧知のマネジャーらの力を借りて介護を続けてきました。大山さんが認知症と判断されたとき、「ショックというか、この先どうしたらいいか悩んだ」と言います。その時から、「僕は絶対に先に死ねない」と思うようになったそうです。大山さんが認知症になったと言いたくなかったし、知られなくなかった。でも、大山さんのために一生懸命やればやるほど、砂川さんがおかしくなってくる。そんな苦悩のなか、親友の毒蝮(どくまむし)三太夫さんに相談したら、「1人で介護なんてできるわけない。しゃべった方がいい」と言われ、15年にラジオ番組で公表。とても楽になったそうです。そうしたなか、2016年4月に砂川さんの尿管がんが判明。抗がん剤治療が始まり、入退院を繰り返しているため、急きょ大山さんが入る老人ホームを探したそうです。

砂川さんはホームでの大山さんの様子について、「お友達もできて元気にやっています」と報告。「試練ですが、まずは僕自身のがんを治さないといけない」。大阪の講演会には体調をおして臨んだが、大山さんがどうしているかと思うと涙が出るという、「これが愛なのかな」と話しました。

講演会の後半では、大阪会場は山口大学大学院神経内科の川井元晴准教授、東京会場は川崎幸クリニック院長の杉山孝博さんとの対談が行われました。

砂川さん自身の抗がん剤治療が始まり体調の変化が激しいなかでの登壇でしたが、6月5日に大阪・肥後橋のYMCA会館、25日に東京・虎ノ門のニッショーホールで、無事講演会を実施することができました。

### ●シンポジウム「認知症になっても安心して暮らせる街づくり～認知症フレンドリーコミュニティをめざして～」

2月18日、東京・新橋のヤクルトホールで日本と英国の専門家によるシンポジウム「認知症になっても安心して暮らせる街をめざして」が開かれました。地域包括センターや社会福祉協議会などで働く専門職を中心に約350人が参加。日英両国での官民の取り組みについて意見が交わされました。翌19日は大阪の梅田スカイビル・ステラホールで開催し約400人が参加しました。シンポジウムに先がけて、当事者からのメッセージとして東京では丹野智文さん、大阪では杉野文篤さんが話しました。

来日した英国アルツハイマー協会のジェレミー・ヒューズ会長は、認知症に優しい地域づくりを国家戦略に掲げる自国の現状について基調講演しました。公共空間の色使いを認知症の人にもわかりやすくするなど地域ごとの事例などを紹介。「認知症をサポートする地域社会があれば、明るく、積極的な人生を送ることができます。当事者の孤立を防ぎ、地域の一員としての自尊心を育むことにもなる。そのことを提唱したい。英国では、大小様々な220の地域社会が、そのためのプログラムに取り組んでいます。独立した組織による実施基準で運営され、認定を受けるためには、認知症の人を中心に据えた体制が必要です。日本で始まった認知症サポーターの仕組みを、英国でも取り入れています。日本と英国は、世界的な規模で認知症のリーダーシップをとる立場に立っています。両国が学びあうことで、認知症に優しいコミュニティを各国に広げていけると考えています」と話しました。



後半のパネルディスカッションでは認知症にやさしい街として知られる英国プリマス市からプリマス大認知症学術パートナーシップリーダーのイアン・シェリフ氏がネット中継で参加しました。前半に講演したヒューズ会長も加わり国際医療福祉大学大学院の堀田聡子教授が進行役を務めました。



### ■パネリストのみなさん(敬称略)

ジェレミー・ヒューズ(英国アルツハイマー協会会長)

イアン・シェリフ(プリマス大認知症学術パートナーシップリーダー)

横山絵里(京都府宇治市健康生きがい課係長)

徳田雄人(NPO法人「認知症フレンドシップクラブ」理事)

宮腰奏子(厚生労働省認知症施策推進室長)

堀田聡子(国際医療福祉大学大学院教授)

## 高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ「あまなつ」(南伊豆)

事業団など主催

「認知症カフェ」は、認知症の人やその家族、認知症のことが気になる地域の人などさまざまな人が気軽に集まり、お茶を飲み語りながら、参加者が安心できる空間と時間を共有する場所です。認知症カフェ「あまなつ」は、15年2月に静岡県南伊豆町の小さな集落で活躍するNPO法人風楽(ふうら)(代表・渡邊映子さん)とともに開設しました。



「あまなつ」には毎回10人前後の方々が集まります。月に1回の開催を心待ちにし、毎回参加してくださる方もいます。また、この「あまなつ」の活動を通して「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」が実際に動きはじめ、南伊豆町健康福祉課、地域包括支援センターとNPO法人風楽の主催で、「南伊豆町認知症地域連携セミナー」の開催も始まりました。

17年2月9日には、「ここでみんなとお昼を食べたい」という参加者の声にこたえて、初めて「ランチ会」を行いました。参加費は300円。メニューは唐揚げや豚汁などのメニューに、参加者からのお漬物やコーヒーゼリーなどの差し入れで、より豪華なランチになりました。今後も、参加者の希望に寄り添いながら、認知症を中心としたまちづくり、地域づくりのモデルとなるように取り組みを続けます。

## ともにつくる認知症カフェ開設応援助成

事業団主催

2016年度に新たに創設した「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」で、全国の24団体に計約2000万円を贈呈しました。

認知症になっても住み慣れた地域で暮らせる社会を実現するためのひとつの手段として「認知症カフェ」に注目し、新規で立ち上げる認知症カフェを対象に、1団体につき最大で100万円の助成を行いました。助成金は開設のための初期費用と向こう3年間の運営費にあてられ、行政からの補助金では対象になりにくい人件費についても、支出総額の30%まで認めることが特色です。

9月1日に募集を開始、10月7日の締め切り時には、全国から324件の申し込みがありました。現地調査も含めて当事業団内に設けた選考委員会による2次の選考の結



果、24件に総額2005万3500円の贈呈をしました。

17年1月に朝日新聞紙面などで贈呈団体を発表し、東日本と西日本の12件ずつに分かれて、1月25日に朝日新聞東京本社で、2月2日に大阪本社で贈呈式を行いました。

●「ともしつくる認知症カフェ開設応援助成」を2016年度に受けたのは以下の24団体です

	所在地	団体・グループ名	カフェの名称
1	北海道	江部乙まちづくりコミュニティ行動隊女子部	駅カフェ
2	秋田県	ふれ愛塾	ふれ愛ホームカフェ
3	秋田県	ひなたぼっこ	おしゃべりサロン ひなた
4	秋田県	能代市キャラバン・メイト連絡協議会	がっこちゃっこカフェ
5	福島県	苧麻倶楽部	むらのカフェ メケ・メケ
6	千葉県	うたせ認知症を考える会	ベイタウンカフェ
7	千葉県	住まい・まち研究会	ももとせ・サロン
8	東京都	南千住認知症キャラバン・メイト連絡会「M <sup>2</sup> サポ会」	Mカフェ～汐入
9	東京都	若年認知症交流会小さな旅人たちの会	若年認知症カフェ ちーたーひろば
10	神奈川県	認知症の人と家族の会 神奈川県支部	川崎カフェ (仮称)
11	山梨県	身延山大学	オレンジカフェ身延山
12	山梨県	だんだん会	オレンジサロン わいわい 長坂・白州
13	岐阜県	羽島認知症を考える会	あいそらオレンジカフェ
14	岐阜県	くわのみ	くわのみカフェ
15	愛知県	リビングサポートあいあいの家	YOU, i c a f é
16	三重県	みなみいせ市民活動ネット	オレンジカフェ ほはら
17	大阪府	東大阪市人権長瀬地域協議会	オレンジカフェわかば
18	兵庫県	青山1000人会	青山ふれあいサロン
19	奈良県	医療と介護のボランティアさくらい	D-C a f e ・ !
20	岡山県	ダイヤモンドクラブ	にじ
21	広島県	認知症サポートグループ だんだん	認知症カフェ だんだん
22	福岡県	若年性認知症カフェ なんぱく	若年性認知症カフェ なんぱく
23	佐賀県	宅老ちよだひまわりの会	ひまわりカフェ
24	大分県	福祉コミュニティKOUZAKI	ハマユウ

## 高齢者在宅ケアモデル事業 ～認知症カフェ開設講座～

事業団主催

京都認知症カフェ連絡会代表世話人で認知症カフェの重要性を提唱している武地一さん（藤田保健衛生大学医学部認知症・高齢診療科教授）の講演や、各地で認知症カフェを運営している方々の実践報告などを通して認知症カフェの意義や開設・運営のためのポイントを学ぶ講座を開催し



ています。16年は4月17日に宮城県仙台市、7月31日に北海道札幌市、10月22日に広島市で計3回開催しました。

仙台の講座は、仙台市地域包括支援センター連絡協議会に協力をいただき、約30人が参加しました。武地さんは、認知症の人や家族の支援について触れた後、「認知症カフェ」と「認知症予防カフェ」や「高齢者サロン」の違いについても言及。「世間的にニーズが高いのは認知症予防かもしれないが、それらは結果的に認知症の人を排除することにつながる場合がある」と認知症予防はカフェの本来の役割とは異なることを説明しました。



武地さんの講演の後に、各地の認知症カフェの実践報告とパネルディスカッションを行いました。参加者からの質問をもとに、認知症カフェを開設、運営するために欠かせない資金やボランティアの集め方、地域の人をどのようにまきこむのかなど、より具体的な話を掘り下げました。

札幌の講演会（北海道、苫小牧市後援）には約50人、広島の講演会には約150人が参加し、熱心な参加者の姿から、認知症カフェの関心の高さがうかがえました。

## 朝日高齢者福祉セミナー2016（名古屋）

愛知高齢者福祉研究会、朝日新聞社、事業団主催

高齢者を支える医療や福祉を考える「朝日高齢者福祉セミナー2016」が7月3日、名古屋市中区の朝日ホールで開かれました。「医療と介護をつなぐー認知症の介護を考える」をテーマに講演とシンポジウムがありました。

約250人が参加。国立長寿医療研究センター（愛知県大府市）の遠藤英俊・長寿医療研修センター長が「認知症の予防と治療の最前線」と題して基調講演を行いました。



年々増え続け2025年には高齢者5人に1人になると予測される認知症。遠藤さんは認知症の原因疾患の6割をアルツハイマー病が占めている現状を踏まえて、「初期段階で治療を始めることで認知機能を長く維持できる」と指摘。また高血圧症や糖尿病などの生活習慣病は認知症のリスクを高め、運動や知的活動はリスクを減らすと説明。根本的な治療薬の開発がかなり進んでいる現状に触れた上で、「60歳以降は対人交流で閉じこもりを予防し、70歳以降はダンスや趣味、回想法といった薬に頼らない手立ても大事」と締めくくりました。

シンポジウムではグループホームの現場で認知症のお年寄りに接している担当者らがケアの実践例などを紹介しました。



## 世代間交流「グラン・チャ・プロジェクト」

(GrandfatherとChildの造語)

大阪YMCA、事業団主催。大阪府教育委員会後援

次代を担う青少年たちが、世界にまれに見る日本の長寿社会でどのように生きるのか。自分自身の「健康」「家族」「地域」「社会」をどう考えていけばよいのかを高校生とシニアが里山生活体験活動を通して相互に学び合う「世代間交流プロジェクト」が7月と8月に大阪市西区・大阪YMCA会館と大阪府泉南市の里山の自然学校・紀泉わいわい村で行われました。高校生14人(講座のみも含む)とシニア4人が参加しました。今回の講座に参加した高校生には、認知症サポーター養成講座を受講したとみなして認知症サポーターを示すオレンジリングが渡されました。また、大阪体育大学教授・伊原久美子さんの協力で、世代間交流の実践効果を明らかにするため、参加した高校生を対象に意識調査も実施しました。

### ●スケジュール

7月23日(土) <大阪YMCA>	8月3日(水)～5日(金) <紀泉>	8月19日(金) <大阪YMCA>
「長寿社会をどのように生きるか」 高齢者と障害者の理解。 健康講座や実際、骨密度の測定等	8/3-4 高校生同士の交流 8/4-5 高校生と高齢者の交流	紀泉のふりかえり 高校生と高齢者の交流

### ●紀泉わいわい村プログラム

8/3	8/4	8/5
・入村式／オリエンテーション	・朝食(自炊) ・ダム周辺ハイキング ・シニア合流	・朝食(自炊) ・ところてん、石臼挽きなど 農村体験 ・昼食(自炊)
・キャンプ場散策／川遊び ・自炊／竹の伐採	・昼食(自炊) ・夏野菜収穫、クラフト	・退村式
・夕食 ・高校生同士の交流	・夕食(流しそうめんなど) ・いろりを囲んで高校生、シニア交流	

青少年や高齢者に関するプロジェクトはそれぞれ各所で行われていますが、世代をつなぐ「世代間交流」はあまり例がなく、日本の高齢社会の現状を見れば、とても重要な課題と言えます。このプロジェクトには、60代が2人、70代前半、後半が1人ずつと計4人が参加し、高校生12人と、昔の生活様式を取り入れた紀泉わいわい村で1泊の交流をしました。かまどで炊くごはんづくりや流しそうめんの竹割り、石臼で米粉をつくる作業は、やはりシニアが指導的な立場で行われました。夜の交流会では、あるシニアによる戦争体験で家族を亡くした話に、高校生た

ちは言葉を失っていました。また、高齢者と寝食をともにすることで、高齢者に対する高校生の意識が変わったかどうかということについて、「シニアに多くのことを学んだ」「激動の年代を歩んできたシニアは、自分たちよりも柔軟で適応力が高い」といった意見が出ました。「世代間交流」は「異文化交流」でもあり、青少年と高齢者がより多くふれあうことで、共に理解し、学び合うことの大切さを痛感しました。



## 高齢期の豊かなくらし研究会講演会(大阪)

高齢期の豊かなくらし研究会、事業団主催

市民の目線に立って高齢期の問題をとらえ、情報の提供をしていこうと、学者や医療、看護、介護、福祉の専門家らが「高齢期の豊かなくらし研究会」(佐瀬美恵子代表)を2013年7月に立ち上げました。当事業団は同研究会とともに、専門家の情報交換会と市民向けの講演会を開催してきました。16年度は「認知症の人の支援と地域包括ケア」「胃ろうという選択」の二つのテーマの講演会を、大阪市北区中之島2丁目の朝日新聞アサコムホールで開催しました。

### ●講演会「認知症の人の支援と地域包括ケア」～地域で暮らしを続けるために

講演会「認知症の人の支援と地域包括ケア」を5月28日に開催しました。講師は自身も親の介護をしているという関西大学人間健康学部教授の黒田研二さん。100人余りの聴講者が入場し、認知症の人が地域で暮らし続けるために必要な保健予防、医療、介護、生活支援、住まいの地域のネットワーク(地域包括ケア)について学びました。



認知症は回復しないものと以前は考えられていましたが、今は早く対処し環境作りをすることにより、認知症の人でもかなりできることが増えてきたと話す黒田さん。2012年厚労省の認知症高齢者の統計によると、65歳以上の認知症の有病率の推定は439万人、軽度認知障害(MCI)は380万人と見られます。合わせて819万人が何らかの認知症を患っていることとなります。2015年1月に政府で策定した認知症対策の国家戦略「新オレンジプラン」では、団塊の世代が75歳となる2025年を見据えて早急な地域整備が求められています。新オレンジプランの中には、認知症サポーターの養成や医療、介護の提供、認知症初期集中チームの編成、また介護者の支援、認知症カフェの設置などが組み込まれています。

認知症初期集中支援チームとは、家族の訴えなどに初期支援を包括的集中的に行うというもので、またよく耳にする認知症カフェは、認知症の当事者や家族、医療、福祉関係者にとっても大

事な啓発の場だと黒田さんは説明しました。

また、地域密着型サービスとして、「通い」「訪問」「泊まり」を利用者のニーズに合わせて行う小規模多機能型居宅介護のことや、緊急に24時間対応するヘルパーの体制なども紹介しました。

さらに地域住民の態度調査を行ったところ、認知症の人に対する地域住民の態度を肯定的に変えていくためには、認知症の人とのかかわりや認知症についての関心、高齢者のイメージの向上が大事ということがわかってきたそうです。

最期に認知症をどのように受け止めるかということについては、老いと死をどう受け入れるかといったことも関係しており、これは医療、介護関係者ばかりでなく、個人や社会にも問いかけている問題だと言えます。日本のみならず人類社会が直面している問題ですが、認知症を支えるしくみをつくれれば誰もが安心して暮らせる社会が作れるので「長寿社会の達成がもたらした一つの恩恵と積極的に捉えることが大事」と黒田さんはしめくりました。

### ●講演会「胃ろうという選択」～あなたならどうしますか～

胃ろうとは、栄養を投与するために胃に設けた穴、あるいは胃に穴を設ける手術のことを言います。病気やけがなどで口から飲食できない人や、口に食べ物が入ると誤嚥(ごえん)を起こし生命に危険が及ぶ人などに適用されています。現在、国内では推定40万人がこの手術を受け、多くは高齢者です。医療技術の進歩とともに汎用されるようになった胃ろうは有益な手段とされていますが、否定的にとらえられることも多く、本人だけでなく家族も大変悩むところです。胃ろうをするかどうか悩んだときにどのように対応すればいいのかを考える講演会「胃ろうという選択～あなたならどうしますか?～」を10月15日に開催しました。

講師の大阪・大東市のあいの里竜間診療所所長の中村幸枝さんは、認知症診療も含め、大東市、四條畷市における医療と介護の連携のための活動を日々行っています。中村さんはまず日本の高齢社会の現状について話し、その後胃ろうについて基本的なことを、図や写真などでわかりやすく説明しました。

中村さんは全日本病院協会の胃ろう患者へのアンケート調査結果をふまえ、確実な栄養補給が可能ということや経鼻栄養に比べ患者の不快感が少ないといった利点をあげる一方、まれに手術中や手術後に合併症を起こすことがあることや、すべての患者が胃ろうできるとは限らないという短所を述べました。このような技術的な問題のほかにも、一度胃ろうをすると、取り外すケースが少ないことから、死生観など倫理的問題もあるとのこと。中村さんはそのような問題がありながらも、胃ろうが医療的措置として有効であると語ります。さらに、誰が胃ろうをすることを決めるのかという問題では、決定を本人ができない場合、家族に委ねることになりますが、本人のそれぞれの文化価値や死生観などをふまえて考えていかなければなりません。また胃ろうに限らず、自分で判断できなくなった時のために、事前指示書を作成することも重要と話し、最後は、「皆さんは自分自身がしてほしい医療を身近な人に伝え、満足のいく一生を尊厳を持って生きてほしい」と中村さんは結びました。

## 高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国23カ所)

事業団主催

日ごろ外出の機会が少ない、高齢者向け施設の入居者や利用者らを対象に、音楽家や相撲の力士らが訪問して楽しいひと時を届ける「ゆうゆうビジット」は、2016年度で7年目を迎えました。16年度からは、大阪フィルハーモニー交響楽団などで活躍するバイオリニストやチェリストらで構成する「ベルリントリオ」が加わり、7組が全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など23カ所を訪問しました。

### 【福田進一さん】

国際的に活躍しているギタリストの福田進一さんは4月21日、長崎市の特別養護老人ホーム「こえばる」を訪れ、施設の利用者ら約100人の前で美しい音色を響かせました。クラシック音楽のバッハのプレリュードから始まって4曲を演奏。日本の歌「さくら変奏曲」「出船」「宵待草」と映画音楽など計10曲を披露しました。福田さんは11月30日に愛知県名古屋市の特別養護老人ホーム「永生苑」、12月10日は岩手県盛岡市の特別養護老人ホーム「さくらぎの里」も訪問しました。



### 【おおたか清流・大友剛さん】

七色の声で歌い踊るおおたか清流さんと、「ピアニカ王子」大友剛さんの歌やマジックを交えた演奏会が5月19日、岩手県奥州市の特別養護老人ホームやまゆり荘でありました。おおたかさんは地元でとれる果物の歌を歌いましょうと提案、リンゴにまつわる歌のメドレーを披露。「七つの子」の演奏では、カラスの鳴き真似に会場が盛り上がりました。5月23日は福井県敦賀市にある特別養護老人ホーム「第2 溪山荘ぼっぼ」、12月7日は青森県上北郡の特別養護老人ホーム「百石荘」を訪問しました。

### 【川島成道さん】

バイオリニストの川島成道さんがピアニストの宮本聖子さんと一緒に6月27日、大阪府箕面市の特別養護老人ホーム「照葉の里」を訪問しました。クライスラーの「愛の喜び」「愛の悲しみ」など、全9曲を披露。入居者や施設職員ら約60人が聞き入りました。9月23日には川島さんとピアニストの佐藤勝重さんが、愛知県弥富市の特別養護老人ホーム「輪中の郷」を訪問、熊本地震から半年経った



10月18日には熊本市の介護老人保健施設「聖母の丘」を訪れました。10月31日は鳥取県米子市の介護老人保健施設「やわらぎ」、2017年2月3日には川島さんとピアニストの山口研究生さんが、愛知県美浜町野間の特別養護老人ホーム「ビラ・オレンジ」を訪れました。

### 【高砂部屋の力士】

高砂部屋の力士で三段目の朝乃丈さんと石橋さんが7月25日、愛知県名古屋市南区の特別養護老人ホーム「ゆうあいの里大同」を訪問しました。石橋さんは近畿大学出身で2016年春に入門したばかり。2人は小手投げなど技を次々と披露。元力士でマネージャーの松田哲博さんによる相撲甚句や高砂部屋特製のみそ仕立てのちゃんこ鍋もふるまわれ、会場に笑顔が広がりました。11月28日には、福岡県朝倉市の介護老人保健施設「アスピア」を朝乃丈さんと序2段の朝森本さんが訪れ、お年寄りら約150人と交流しました。2017年1月23日には、初場所を終えたばかりの幕下の朝興貴さんと序二段の朝ノ島さんの2人が、東京都八王子市の特別養護老人ホーム「小松原園」を訪問しました。3月27日には大阪府羽曳野市の養護老人ホーム「四天王寺悲田院」を三段目の朝山端さんと序二段の朝ノ島さんの2人が訪問しました。



### 【日色ともゑさん・マリオネット】

劇団民藝所属の女優日色ともゑさんと、ポルトガルギターとマンドリンのデュオ「マリオネット」が8月2日、広島市の特別養護老人ホーム「菜の華」を訪問しました。利用者やスタッフら約90人が集まるなかマリオネットが「暗いはしけ」を演奏。その後日色さんは、あまんきみこ作の童話「白いぼうし」を朗読。表情豊かな声に、利用者たちは静かに耳を傾けていました。10月3日は福島県郡山市の特別養護老人ホーム「光の森の丘」を訪問。4日は福島県伊達市の特別養護老人ホーム「ファミリーユ」を訪問しました。



### 【千住真理子さん】

バイオリニストの千住真理子さんとピアニストの山洞智さんが9月4日、宮城県気仙沼市の特別養護老人ホーム「春圃苑」を訪問しました。利用者ら約100人が集う前で、バッハ「G線上のアリア」など8曲を演奏。日本の曲「もみじ」の演奏では拍手が起きる場面もあり、「涙が出てくるほど感動した。いい日になった」という感想が聞かれました。12月2日は宮城県塩釜市の高齢者福祉複合施設「月見ヶ丘」を訪問しました。

## 【ベルリントリオ】

ベルリンに音楽留学した経験があるピアニストの宮本聖子さんとバイオリニストの宮田英恵さん、チェリストの石田聖子さんの3人で構成する「ベルリントリオ」が、2016年度からゆうゆうビジットに参加しました。11月21日には神奈川県横浜市旭区の特別養護老人ホーム「サニーヒル横浜」でミニコンサートを開催。ショパンの「小犬のワルツ」などクラシックの名曲に加え、NHKドラマ「真田丸」のオープニング曲など10曲を披露しました。12月4日は京都府宇治市の特別養護老人ホーム「笠取ふれあい福祉センター」、2017年1月15日に愛知県名古屋市市の特別養護老人ホーム「みなみやま」を訪れました。



2010年2月に始まった「ゆうゆうビジット」は、通算で123回実施。

2016年度の全訪問先は次の通りです。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地域	訪問先
1	福田進一	4月21日	長崎市	特別養護老人ホーム「こえばる」
2	おおたか静流・大友剛	5月19日	岩手県奥州市	特別養護老人ホーム「やまゆり荘」
3	おおたか静流・大友剛	5月23日	福井県敦賀市	特別養護老人ホーム「第2溪山荘 ぼっぼ」
4	川島成道	6月27日	大阪府箕面市	特別養護老人ホーム「照葉の里」
5	高砂部屋	7月25日	愛知県名古屋市	特別養護老人ホーム「ゆうあいの里」
6	日色ともゑ・マリネット	8月 2日	広島市	特別養護老人ホーム「菜の華」
7	千住真理子	9月 4日	宮城県気仙沼市	特別養護老人ホーム「春圃苑」
8	川島成道	9月23日	愛知県弥富市	特別養護老人ホーム「輪中の郷」
9	日色ともゑ・マリネット	10月 3日	福島県郡山市	特別養護老人ホーム「光の森の丘」
10	日色ともゑ・マリネット	10月 4日	福島県伊達市	特別養護老人ホーム「ファミリー」
11	川島成道	10月18日	熊本市	介護老人保健施設「聖母の丘」
12	川島成道	10月31日	鳥取県米子市	介護老人保健施設「やわらぎ」
13	ベルリントリオ	11月21日	神奈川県横浜市	特別養護老人ホーム「サニーヒル横浜」
14	高砂部屋の力士	11月28日	福岡県朝倉市	特別養護老人ホーム「アスピア」
15	福田進一	11月30日	愛知県名古屋市	特別養護老人ホーム「永生苑」
16	千住真理子	12月 2日	宮城県塩竈市	特別養護老人ホーム「月が丘」(萩の里)



17	ベルリントリオ	12月 4日	京都府宇治市	特別養護老人ホーム 「笠取ふれあい福祉センター」
18	おおたか静流・大友剛	12月 7日	青森県上北郡	特別養護老人ホーム「百石荘」
19	福田進一	12月10日	岩手県盛岡市	特別養護老人ホーム「さくらぎの里」
20	ベルリントリオ	1月15日	愛知県名古屋市	特別養護老人ホーム「みなみやま」
21	高砂部屋の力士	1月23日	東京都八王子市	特別養護老人ホーム「小松原園」
22	川島成道	2月 3日	愛知県知多郡	特別養護老人ホーム「ピラ・オレンジ」
23	高砂部屋	3月27日	大阪府羽曳野市	特別養護老人ホーム「四天王寺悲田院」

## 第12回自殺防止事業「自殺とマスメディア報道」(福岡)

福岡いのちの電話、事業団主催。朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援、大同生命厚生事業団協賛

10月22日、福岡市の福岡明治安田生命ホールで自殺を防ぐために何ができるのかを考える公開講座を開催しました。筑波大教授で精神科医の高橋祥友さんを講師に迎え「自殺とマスメディア報道」をテーマに聴講者約150人と共に、自殺予防につながる糸口を探りました。高橋さんは、「現実の自殺報道の方がドラマなどより影響が大きく、メディア報道が群発自殺につながる可能性もある」と指摘しました。過去の報道から「自殺をトップ記事で扱い、自殺の手段から詳しく報道したため、多くの模倣者や後追い自殺者が出た」、「あおる報道(遺書の全文公開)は何の意味があるのか。自殺報道は予防報道に移すべきである」と訴えました。



第2部の鼎談では永田工(朝日新聞報道センター)記者と林幹男(福岡いのちの電話)理事長が加わり、「自殺やいじめをどのように報道するか」が話し合われました。子どもの自殺では、いじめ以外の自殺は取り上げにくく、いじめ自殺に目がいってしまうことが指摘され、「ストレートニュースではなく踏み込んだ取材をきちんとする必要は感じている」とされました。予防報道については「続報で予防に向けてのプラスαの情報を付け加え、報道する体制は徐々にできつつある」。2015年の自殺者数は24,025人で、近年減少傾向ですが、依然として多い人数です。与えられたいのちを大切にする、明日につながる糸口をこの講座で見つけ出せたならば幸いです。

## いのちの電話などに福祉助成金(福岡)

当事業団では、福岡県内で地道な社会福祉活動を続け、継続的な支援が必要な団体を支援するための助成を続けています。助成金は運営費として活用できます。ボランティア相談員が年中無休の24時間体制で電話相談に応じ、さまざまな事情から自殺を思うほど精神的危機に直面し、失いかけた生きる力の回復を手伝う努力をしている、福岡いのちの電話(福岡市)と北九州いのちの電話(北九州市)、さらに交通事故遺族の救済、福祉更生の援助や慰霊祭、励ます会、就学援助、奨学生の推薦などを行っている、福岡県交通遺児を支える会(福岡市)の3団体に各15万円を贈りました。贈呈式は17年3月15日に朝日新聞西部本社で行いました。



## アサヒベビー相談室(大阪、高槻、大津)

事業団主催

育児に悩む親のために、デパート内に無料の育児相談室を設け、医師や歯科医師、栄養士などの専門家が、病気や発育、栄養などの相談を行っています。実施場所は、大阪市、大阪府高槻市や滋賀県大津市の三つのデパートです

大阪市阿倍野区にある「あべのハルカス近鉄本店」は、1957年に全国で初めてデパート内に無料の相談室を開設。2014年春にリニューアルオープンし4年目を迎えました。

ここには大阪市立大学医学部付属病院小児科の医師のほか、栄養士やヨガインストラクター、小児歯科医師といったさまざまな専門家がそろっています。保育の専門家によるパネルシアターや手遊びは親子で参加できるイベントで、にぎやかな雰囲気で開催されています。管理栄養士による「離乳食講習会」は、栄養士と近い距離で話しながら聞くことができる、子育てに役立つ講習会です。高槻市の西武高槻店の開設は1974年。毎週木曜日に小児科医が相談にあたっています。大津市の西武大津店は2004年に開設。子育て支援施設「育(はぐ)ママセンター」で相談員が子育ての先輩の立場からアドバイスをするベビー相談を実施していますが、今年度は休止しました。

今年度の各相談室の利用者数は次の通りです。

あべのハルカス近鉄本店 972人(1回平均15.2人) ミニ講演会 272人

西武高槻店 302人(1回平均6.9人)



## 第68回保健文化賞(東京)

第一生命保険主催。厚生労働省、事業団など後援

保健衛生分野の向上に貢献した団体と個人に贈られる保健文化賞の贈呈式が10月20日、東京都内のホテルで行われました。10団体と個人5人の計15件に、賞状と賞金(団体各200万円、個人各100万円)と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。今回で賞の受賞総数が個人341人、団体664件になり累計で1005件と1千件を超えました。受賞者は翌日皇居へ赴き、天皇、皇后両陛下に受賞のあいさつを行いました。



第68回の受賞団体・個人は以下の通りです(敬称略)。

【団体】札幌市医師会▽岐阜県高山市▽愛知県食生活改善推進員連絡協議会▽日本国際民間協力会（京都）▽大阪府医師会▽佐用町南光歯科保健センター（兵庫）▽兵庫県難病団体連絡協議会▽南宇和障害者の社会参加を進める会（愛媛）▽食支援ネットワーク・長崎嚙下リハビリテーション研究会▽アジア砒素ネットワーク（宮崎）

【個人】保健師・小林典子（東京）▽順天堂大学医学部教授・樋野興夫（東京）▽医師・藤田保（滋賀）▽京都大学東南アジア研究所名誉教授・松林公蔵▽京都大学環境安全保健機構健康科学センター長・川村孝（大阪）

## 遺贈・遺言セミナー（東京、大阪、名古屋、福岡）

事業団主催

### ●【前期】安心して暮らすための遺言セミナー「老いじたく～あなたの財産を未来に」（東京、大阪、名古屋、福岡）

自分が認知症になった場合への備えや、相続で起きうる問題、簡単な遺言状の書き方といった様々な「老いじたく」について学ぶ「遺贈・遺言セミナー」を、東京、大阪、名古屋、福岡の朝日新聞各本社で開催しました。東京（5月19日、参加92人）、大阪（5月14日、同82人）、名古屋（5月26日、同16人）の各会場は、成年後見制度や相続問題に詳しい弁護士の中山二基子（ふきこ）さん、福岡会場（6月21日、同24人）は、福岡県弁護士会の石井将（まさる）さんが講演をしました。



中山さんは、十分な老いじたくをせず、遺言を書かないまま夫が死亡してしまったため、夫の財産の相続人として夫の兄弟、甥姪など22人もの親族が現れ相続に苦労した妻の例も紹介しました。福岡市で開かれた遺贈・遺言セミナーでは石井将弁護士が、「相続」が「争族」にならないための「知っておくと役立つ遺言と相続の法律知識」について、身近な事例を引用しながら詳しく説明をし、自分の財産を自分で処理出来る「遺言書」は、トラブル回避に役立つことを強調されました。

### ●【後期】遺贈・遺言セミナー「おひとりさまの老いじたく」（東京、大阪）

参加者から度々開催回数を増やしてほしいと要望のあった遺贈・遺言セミナーを、今年度は初めて後期にも開催しました。1人住まいの方や、子どものいない夫婦の世帯を主な対象とした「おひとりさまの老いじたく」をテーマとし、朝日新聞東京本社（10月17日、90人参加）と大阪本社（10月2日、95人参加）で開きました。講師はいずれも、弁護士の中山二基子さん。中山さんは、年を取ると心配になることとして、①相続、②自分自身の葬儀やこれまでの入院費の支払いといった「死後の事務処理」、③認知症が出た時の対処という3点を挙げました。東京では初めての試みとして、中山さんの講演会後に個人的な相談を行う個別相談会を開催。申し込み

多数だったため抽選で11人が選ばれ、弁護士3人と税理士1人が相談に対応しました。

## 熊本地震救援金

事業団、朝日新聞社主催

4月に熊本県を中心に発生した熊本地震によって甚大な被害を受けた被災者のために、朝日新聞社と朝日新聞厚生文化事業団は、6月14日まで救援金を募りました。

救援金は、募集期間が終わった後も全国から寄せられ、朝日新聞社からの500万円を含めて、総件数は8856件、総額は2億2221万509円に上りました(2017年3月末現在)。この全額を日本赤十字社本社に送りました。



# チャリティー事業

## 朝日チャリティー美術展(名古屋、大阪、東京)

事業団、朝日新聞社主催

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を名古屋、大阪、東京で開催しました。文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・彫塑(ちょうそ)家、書家、宗教家、茶道家など各界の著名人ら約2700人にご協力をいただき、販売作品は日本画、洋画、工芸、彫塑、書、色紙など約3800点に上りました。

### ●名古屋展

第63回名古屋展は12月17日から19日まで、名古屋市中区栄の丸栄百貨店で開催しました。約800人の作家から約1000点のご協力をいただき、入札と即売で販売しました。

入札作品を全体の2割、約200点に増やしました。初日から2日間、展示して価格を入札していただく方式なので、作品をゆっくり鑑賞できます。主な作品を朝日新聞別刷りで事前に紹介しましたので、実物との対面を楽しまれるお客様の姿が多数見受けられました。



### ●大阪展

大阪展は、12月27日から29日まで、大阪・なんば高島屋で開催しました。約900人の作家から1314点の寄贈をいただき、入札と即売で販売しました。特に今回は90回の節目を迎え「人間国宝」(重要無形文化財保持者)の特別コーナーを設け、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹、人形の22点を展示、多くの来場者が名人のわざの極みに見入っていました。



### ●東京展

92回目となる東京展は17年3月3日から6日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、約1千人の作家から寄贈された作品1500点を入札と即売形式で販売しました。

3、4日は日本画家、洋画家、5、6日は工芸家、版画家、書家、著名人の作品を販売。前期、後期ともにお目当ての作家の作品を求めめるため、初日は早朝から多くの人が列を作りました。終了後のアンケートには「毎年楽しみにしている」「作品を購入することで社会福祉に貢献することができて嬉しい」といった感想が寄せられました。





### ●Next Art展

次世代のアートを担う若手作家の作品を推薦するNext Art展を同じ会場で開催し、応募作133点から選ばれた31作品を展示、入札販売しました。7度目となる今回も多くの方の来場者でにぎわい、作家と来場者が交流を図りながら作品について語り合う姿もみられました。売り上げは、作家のさらなる創作活動と当事業団の社会福祉事業に役立てます。

(チャリティー美術展に作品を出展していただいた方々のお名前は54ページ～61ページに、Next Art展の推薦作品の制作者は61ページに掲載しました)

## 第66回メサイア演奏会(東京)

事業団、朝日新聞社主催。東京藝術大学音楽学部協力、原田積善会特別協賛

チャリティーコンサート第66回「藝大メサイア」を12月22日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開きました。メサイアは、作曲者のヘンデルが社会福祉の目的以外で演奏を認めなかった曲とされ、収益は社会福祉事業に充てられます。東京藝術大学特別招聘教授のドミニク・ウィーラーさんによる指揮で、藝大フィルハーモニアと同大学音楽科の学生ら約200人が「メサイア」を披露。荘重な「ハレルヤ」コーラスで約2300人の聴衆を魅了しました。1951年(昭和26年)の第1回より同大学同学部の教員、学生が出演する年末恒例のチャリティーコンサートで、毎年オーディションで選考されるソリストは、その後も日本の音楽界をリードする方たちばかりです。今年のリソリストは、佐々木美歌さん(ソプラノ)、中山茉莉さん(アルト)、川上晴央さん(テノール)、黒田祐貴さん(バス)のみなさんが務めました。



## 第58回各派合同三曲演奏会(大阪)

事業団主催



琴、三絃、尺八の世界で活躍する邦楽の各派社中が出演する演奏会が11月23日、大阪市中央区のNHK大阪ホールで開催されました。観客は約1,000人。次々と奏でられる優美で華やかな和の音色に浸りました。出演社中と曲目は次の通り(出演順、敬称略)。

- ▽須山知行・中島警子社中「秋韻」▽都山流大阪府支部「尺八三部合奏曲二番冴ふり」
- ▽当道友楽会菊武社中「楓の花」▽八千代会「都踊」▽菊田歌雄社中「月下の稔り」
- ▽中扇喜瑠鳳社中「時鳥の曲」▽酒井典彦社中「協奏曲風『津山の里』」
- ▽箏曲和光会・琴古流玉川社「四季」▽菊扇弘子と琴栄会「愛と祈りの調べ」
- ▽大阪正絃社「サンシャイン島」▽箏曲栄琴会「相生の曲」
- ▽菊井松音と菊井箏楽社「未来花」▽日本音楽大道派仁康中里会「幻想子守唄」
- ▽菊塚春秋会「八島(屋島)」▽遊琴会「万華鏡」

## 第64回洋舞合同祭(大阪)

事業団主催

12月25日から27日までの3日間、大阪・中之島のフェスティバルホールで、モダンダンスとクラシックバレエの祭典「第64回洋舞合同祭」を開催しました。17団体22チーム(児童の部12チーム、大人の部10チーム)総勢950人の出演者が日頃の成果を披露し、華やかなステージで観客を魅了しました。入場者数は4,400人でした。



次の団体が記念表彰を受け、舞台上で当事業団から表彰状と記念品が贈られました。

出演団体は次の通り（出演順）

【25日】児童の部＝波多野澄子バレエ研究所、江川バレエスクール、大阪バレエアカデミー、法村友井バレエ学校▽大人の部＝大阪バレエアカデミー、江川バレエスクール、法村友井ジュニアバレエ団、波多野澄子バレエ研究所

【26日】児童の部＝野辺恵バレエスタジオ、宝塚音楽学校附属宝塚コードモアテネ、アートバレエ難波津、MRB松田敏子リラクゼーションバレエ▽大人の部＝高田由紀子バレエ学園、畑節子バレエ学院、アートバレエ難波津、スズキ・バレエアート・スタジオ

【27日】児童の部＝本田道子バレエスクール、麻美バレエランド、下田春美バレエ教室、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所▽大人の部＝谷桃子バレエ団関西研究所、地主薫バレエ団

## 第63回各流合同茶会／第4回関西学生チャリティー茶会（大阪）

事業団主催

各流派の茶道宗匠の協力を得て行う各流合同茶会と、関西の大学茶道部の学生らによるチャリティー茶会を、3月25、26日、大阪美術倶楽部（大阪市中央区今橋）で開催しました。まだはだ寒いなか、華やかな着物姿の入場者ら、両日で延べ5千人以上が訪れました。

会場には各日8茶室（茶会6茶室、学生チャリティー茶会2茶室）に、大広間に学生による書、生け花、絵画などの展観席が設けられ、にぎわいました。

普段は一般の人たちにお茶を点てる機会の少ない学生たちの茶会では、入場者から「初々しさと和やかな雰囲気よかった」という感想がありました。



●各流合同茶会の懸釜担当宗匠は以下の通り（敬称略・順不同）

【25日】表千家＝生形貴重、裏千家＝松井宗順、武者小路千家＝芳野宗春、藪内流＝随竹庵、庸軒流＝柿本梅軒、松風清社＝泉谷亘風

【26日】表千家同門会大阪支部、裏千家＝矢野宗菁、武者小路千家＝三宅真翁、松尾流＝上西宗慶、宗徧流大阪支部、一茶庵流＝佃一輝

◆協賛宗匠

▽表千家＝木村雅基、森泰輔▽裏千家＝杉本宗璋、村司宗紫、村上宗秀

▽武者小路千家＝木津露真、佐伯江南斎▽藪内流＝藪内流大阪支部五葉会

▽古石州流＝本庄扇宗▽遠州流茶道＝筍新会▽花月菴流＝花月菴流大阪支部

▽習軒流＝坂田柏苑(敬称略・順不同)

●関西学生チャリティー茶会の懸釜大学は以下の通り(順不同)

【25日】裏千家＝追手門学院大学、関西大学

【26日】表千家＝関西学院大学

藪内流＝京都女子大学

展観席の作品協力は、関西学院大学の美術部、書道、いけばな部ほか

運営＝大阪医科大学

## 第62回歳末朝日チャリティー茶会(名古屋)

事業団主催、名古屋美術倶楽部協賛

名古屋の茶道8流派によるチャリティー茶会を12月11日、名古屋市中区の名古屋美術倶楽部で開きました。師走の一日、約千人が各流派のお点前を楽しみました。和服姿の女性が多く華やかな席となりました。

お点前の順番を待つ間、先生持参の道具類をめでたりする光景もありました。

ご協力いただいた各流派と席主は次の通り(敬称略)。

第1席 遠州流(丸山宗翠)、表千家(谷口剛久、柴田昭和)、尾州久田流(下村瑞晃)、松尾流(松尾宗典)

第2席 久田流(加藤久道)、宗徧流(寺尾宗康)、裏千家(庄司宗文)、志野流(蜂谷宗玄)



## 第54回チャリティー大茶会(北九州)

茶道裏千家淡交会北九州支部主催。事業団など後援

第54回チャリティー大茶会が9月3、4日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれました。茶道裏千家淡交会北九州支部の会員によるお点前で、多くの男女が美味しいお茶とお菓子を楽しみ、茶碗に目を凝らす姿が見られました。秋の訪れを告げる茶会には2日間で約千人が訪れ、後日、収益金の一部52万997円が当事業団に寄せられました。

## 杵勝会 第34回歳末チャリティー長唄演奏会(東京)

一般財団法人杵勝会主催。事業団後援

円熟の重鎮から若手まで幅広い層の長唄演奏家が集まる杵勝会が12月18日、第34回歳末チャリティー長唄演奏会を有楽町朝日ホールで開催しました。収益金から20万円が事業団へ寄付されました。

## 浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート(埼玉)

浦和学院高校吹奏楽部主催。事業団後援

さいたま市緑区の浦和学院高校の吹奏楽部員が17年1月18日、朝日新聞さいたま総局を訪れ、チャリティーコンサートで集まった14万3293円を東日本大震災の義援金として朝日新聞厚生文化事業団に寄託しました。

主な後援・協賛・協力事業一覧

(※区分は各事務所受付分)

日程	催事		主催者	会場
<b>本部事務所(東京)</b>				
3/27～8/26	第10回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ戦大会	後援	全東京ろう社会人軟式野球連盟	荒川大橋野球場ほか
4/6	第4回ニューヨーク合唱フェスティバル	後援	文化芸能国際交流機構(JAEXA)	米カーネギー大ホール
4/11～13	第8回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブin横浜」	特別後援	ゴールデンウェーブ開催委員会、横浜みなとみらいホール	横浜みなとみらいホール
4/29・30、5/1	第21回ウォーキングフェスタ東京 ツーデーマーチ	後援	同ツーデーマーチ実行委員会	都立小金井公園など多摩・武蔵野地域
5/3～5	第44回日本車椅子バスケットボール選手権大会	後援	日本車椅子バスケットボール連盟、日本障害者スポーツ協会ほか	東京体育館
6/10	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	青山学院
6/11	日本リウマチ友の会第57回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	ホテルグランヴィア和歌山
7/1・2	第65回関東聾学校陸上競技大会	後援	関東聾学校体育連盟	駒沢オリンピック公園総合運動場
7/16・17	日本自閉症協会第24回全国大会	後援	社団法人日本自閉症協会	ホクト文化ホール(長野県)
7/26～28	第65回関東聾学校バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	宇都宮市体育館
8/5・6	第11回ファミリーホーム全国研究会in横浜	後援	日本ファミリーホーム協議会	横浜市健康福祉総合センター
8/11～14、8/18～21、8/26～28	朝日キャンプ	後援	NPO法人 朝日キャンプ	千葉県夷隅郡大多喜町ほか
9/8	東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	文京シビック大ホール
9/17	光バンドチャリティコンサート 愛のサウンドフェスティバル	後援	東京光の家	たましんR   SURUホール(立川市)
9/22	第32回DPI日本会議全国集会in東京	後援	同実行委員会、DPI日本会議	戸山サンライズ(新宿区)
9/23～25	第41回全日本ろう社会人軟式野球選手権	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	荒川総合運動場ほか
9/24・25	第39回関東ろう者大会 in TOKYO	後援	同実行委員会	国際オリンピック記念青少年総合センターほか
9/24	第20回電動車椅子サッカー関東大会	後援	関東ブロック電動車椅子サッカー協会	さいたま市記念総合体育館
9/25	第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園	後援	手話パフォーマンス甲子園実行委員会	倉吉未来中心大ホール(鳥取市)
9/25・26	第42回みんなの音楽会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	浴風会大ホールほか
9/29	第46回「朗読録音奉仕者感謝の集い」	後援	鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会	弘済会館
9/30	日本点字図書館 秋のチャリティ映画祭	後援	日本点字図書館	なかのZERO



日程	催事		主催者	会場
10/5	第28回国民の健康会議	後援	全国公私病院連盟	ヤクルトホール(港区)
10/12～14	第43回 国際福祉機器 H.C.R.2016	後援	全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会	東京国際展示場
10/22・23	きょうされん第39回全国大会 in くまもと	後援	同実行委員会	熊本県立劇場ほか
10/27・28	第9回全国精神保健福祉家族大会	後援	全国精神保健福祉会連合会	三重県総合文化センター
10/29	第48回愛隣会チャリティバザー	後援	愛隣会	愛隣会(目黒区)
11/1～3	サイトワールド2016	後援	同実行委員会、日本盲人福祉委員会	すみだ産業会館
11/4～6	第39回日本スリーデーマーチ	後援	東松山市、日本ウオーキング協会、朝日新聞社ほか	埼玉・比企丘陵一帯
11/11	平成28年度全国社会福祉大会	後援	厚生労働省、全国社会福祉協議会、中央共同募金会	メルパルクホール(港区芝公園)
11/12	第13回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	日本点字図書館オープンオフィス会場
11/26・27	第20回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会	後援	同交流集会京都実行委員会など	佛教大学(京都市)
12/2	第28回国民の健康会議	後援	全国公私病院連盟	ヤクルトホール(東京都港区)
12/5～7	第54回弘済学園 わたしたちが創る展	後援	鉄道弘済会ほか	JR東京駅
12/9～11	第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会	後援	厚生労働省ほか	愛知芸術文化センターほか
12/10	第37回全国歯科保健大会	後援	沖縄県、沖縄県歯科医師会ほか	沖縄県コンベンションセンター劇場棟
12/16	第65回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、東京都社会福祉協議会、東京都共同募金会	東京都庁
12/17～23	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋
12/18	第14回本間一夫記念 日本点字図書館チャリティコンサート	後援	日本点字図書館	府中の森芸術劇場
2017年3/4	メンタルヘルスの集い(第31回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	有楽町朝日ホール
3/4・5	第46回耳の日記念文化祭	後援	東京都聴覚障害者総合支援機構	東京都障害者福祉会館ほか
<b>大阪事務所</b>				
通年	第52期 電話相談ボランティア養成講座	後援	社会福祉法人 関西いのちの電話	大阪府立羽衣青少年センターなど
通年	平成28年度「地域保健福祉研究助成」「ボランティア活動助成」	後援	公益財団法人 大同生命厚生事業団	
4/10	「全国遷延性意識障害者・家族の会 関西ブロック」講演会	後援	全国遷延性意識障害者・家族の会 関西ブロック	大阪市立生涯学習センター
4/21～23	バリアフリー2016(第22回)	後援	大阪府社会福祉協議会、テレビ大阪	インテックス大阪
5/12	財団25周年記念講演	後援	公益財団法人 大阪認知症研究会	大阪府立国際会議場

日程	催事		主催者	会場
5/27	「若さの栄養学」春の講演会	後援	一般財団法人若さの栄養学協会	大阪産業創造館
5/29	第23回共生・共走リレーマラソン	後援	共生・共走リレーマラソン 実行委員会	花博記念公園、鶴見緑地 内ハナミズキホール周辺
6/4	共に生きる20	後援	「共に生きるコンサート」 実行委員会	箕面市立メイプル ホール
6/4・5	第11回堺ツデーマーチ	後援	堺市ツデーマーチ実行委員会 (堺市・一般社団法人日本ウォー キング協会・朝日新聞社ほか)	堺市全域
6/12	第23回マインドエアロビクス	後援	マインドエアロビクス実行委 員会	大阪市長居障がい者 スポーツセンター体育室
6/16・17	平成28年度近畿救護施設研究協議会	後援	近畿救護施設協議会	ホテル大阪ベイトワー 4階ベイトワーホール
6/26	第34回日本ライトハウスチャリティ コンサート	後援	社会福祉法人 日本ライトハウス	ザ・シンフォニー ホール
7/1～3	第45回全国児童養護問題研究会全 国大会	後援	全国児童養護問題研究会	ホテル新大阪コン ファレンスセンター
7/5・6	第66回近畿児童自立支援施設野球 大会	後援	兵庫県、近畿児童自立支援施 設協議会	明石公園明石トーカ 口球場、第2野球場
7/16	福祉の就職総合フェア 2016 in OSAKA	後援	大阪府	インテックス大阪2号館
7/23	素のままフェスタ2016	後援	素のままフェスタ実行委員会	豊中市立アクア文化 ホール
7/30・31、 8/6	2016年子供の城 障がい児教育 夏期連続講座	後援	一般財団法人子供の城協会	公文教育会館
8/2～7	第37回「子どもたちの讃歌」展	後援	大阪特別支援教育諸学校造形教育研 究会・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会	大阪市立美術館
8/7～12	第33回「土と水と緑の学校」	後援	公益社団法人 アジア協会アジア 友の会	和歌山県 新宮市高田地区一帯
8/9	第66回施設従事者激励会	後援	大阪民間社会福祉事業従事者 共済会	新歌舞伎座
8/9～9/9	全日本若手障害者リーダー育成留学 "ターニングポイント@RYUGAKU"	後援	NPO法人メインストリーム 協会	大阪府、兵庫県、 アジア各国など
8/18～20	自閉症の子どもキャンプ 「のびのびキャンプ」	後援	大阪府青少年活動財団、関西テレビ青少年成 事業団、特定非営利活動法人アサヒキャンプ	吉野宮滝野外学校
8/19～21	吃音親子サマーキャンプ	後援	日本吃音臨床研究会	彦根市荒神山自然の家
9/22	第22回大阪YMCAインターナ ショナル・チャリティーラン2016	後援	大阪YMCA、ワイズメンズクラブ 国際協会西日本区阪和部・中西部	花博記念公園 鶴見緑地など
9/25	第57回大阪知的障がい者福祉大会	後援	大阪手をつなぐ育成会	阪南市立文化センター サラダホール
10/8～16	第35回スポーツフェスタ2016大阪	後援	大阪知的障がい者スポーツ協会	ヤンマースタジアム 長居など
10/16	ファインエリアフェスティバル 2016	後援	ファインエリアフェスティバル 実行委員会	大阪府立障がい者交流 促進センター、大阪障 害者職業能力開発校
10/23	第44回全大阪ろうあ者文化祭	後援	大阪聴力障害者協会・ 大阪市聴言障害者協会	大阪市長居障がい者 スポーツセンター
10/27	シンポジウム「自閉症と豊かな暮らし ～キャンプ・ロイヤルから学ぶ～」	後援	桃山学院大学社会学部	大阪府立男女共同参画・ 青少年センター

日程	催事		主催者	会場
11/5	第52回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪府肢体不自由児者父母の会連合会・八尾市肢体不自由児者父母の会	八尾市山城町1丁目第1公園
11/8	第17回大阪救護施設合同文化事業	後援	大阪救護施設合同文化事業運営委員会	太閤園迎賓館3階ダイヤモンドホール
11/13	第40回「福祉まつり」	後援	第40回「福祉まつり」実行委員会	関目学園周辺
11/16	平成28年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会、大阪府共同募金会	大阪国際交流センター大ホール
11/19	平成28年度医療社会事業従事者講習会	後援	大阪医療ソーシャルワーカー協会	大阪府社会福祉会館
11/19・12/3	こころがシンドイときシリーズ26「ストレスとうつ予防」	後援	精神障害と社会を考える啓発の会	難波市民学習センター
11/29	「若さの栄養学」秋の講演会	後援	一般財団法人 若さの栄養学協会	大阪産業創造館
2017年1/15	第37回 みんなでつくるコンサート	後援	みんなでつくるコンサート実行委員会	西宮市プレラホール
1/20～24	第36回「障がいのある子どもに学ぶ」図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、大阪市小学校特別支援教育担任者会	大阪市長居障がい者スポーツセンター
2/5	認知症講演会	後援	公益財団法人 大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター
2/9～11	2017国際親善女子車椅子バスケットボール大阪大会	後援	日本車椅子バスケットボール連盟ほか	大阪市中央体育館
2/26	安心して長期療養ができるように！難病患者の医療・福祉を考える 府民のつどい	後援	大阪府、NPO法人大阪難病連・大阪難病相談支援センター	エル・おおさか
3/4	福祉の就職フェア SPRING in OSAKA	後援	大阪府	京セラドーム大阪9階スカイホール
3/14	「わたしは、ダニエル・ブレイク」チャリティー試写会	後援	ロングライド	シネ・リーブル梅田
3/17～4/5	世界ダウン症の日写真展 in 大阪2017	後援	日本ダウン症協会大阪支部	大阪市立中央図書館
<b>西部事務所</b>				
通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会（年に数回予定）	後援	西日本カラオケ連合協議会	北九州市内の生涯学習センターほか
4/10、7/10、8/21	第6回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	全九州ろう社会人軟式野球連盟	福岡県・大牟田市延命球場ほか
5/15	第54回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市、北九州市身体障害者福祉協会ほか	北九州市立本城陸上競技場ほか
5/21	第34回北九州精神障がい者家族会連合会総会及び記念講演会	後援	北九州精神障がい者家族会連合会	あかつき会「さんらいず小芝」事業所
6/7～12、6/15～20	第51回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越 熊本県・鶴屋百貨店
7/15～18	第37回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘
8/10～12	第61回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
10/1・23	第53回福岡県ろうあ者体育大会	後援	福岡県聴覚障害者協会	福岡市民民福祉プラダほか
11/10～12/10	第64回「手足の不自由な子どもを育てる運動」	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市
11/22	平成28年度ひとり親家庭・寡婦のふれあいスポーツ大会	協力	北九州市母子寡婦福祉会ほか	北九州市立浅生スポーツセンター

日程	催事		主催者	会場
<b>名古屋事務所</b>				
4月～10月	第68回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	NHK名古屋放送局センタービル
4/10	第36回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	瀬戸市民公園ほか
4/16～5/29	平成28年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	名古屋・星ヶ丘ボウルほか
4/26～11/20	第13回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市ほか	パロマ瑞穂スタジアムほか
6/2～6/4	第19回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2016～	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや
7/3	第33回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	扶桑文化会館
7/9	第54回心身障害問題を考える集い	後援	社会福祉法人あさみどりの会	愛知淑徳大学記念会堂
7/10	スウェーデンの福祉は今～スウェーデンの社会保障・障害福祉の現状と課題から学ぶ	後援	社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会	名古屋国際会議場
7/26～7/31	第45回聴美会展	後援	中部聴力障害者美術同好会	名古屋市民ギャラリー
8/11～8/16	第33回岐阜心理リハビリテーション療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション部会親の会ほか	岐阜県恵那市・割烹民宿「おおくら」
8/17～8/23	第31回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション連合会	三重県立鈴鹿青少年センター
8/18～8/23	第44回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	蒲郡ホテル別館
9/10～12/10	第64回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内
9/25	第40回'16愛のフェスティバル	後援	社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館
10/8	生き生き長寿フェア2016「はつらつ健康プラザ」	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	あいち健康の森公園(大府市、東浦町)
10/22	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	同講習会実行委員会	名古屋市中区役所ホール
10/25	第64回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県体育館
10/29	第44回医療講演会	後援	三重県重症心身障害児(者)を守る会	三重県教育文化会館
11/6	第61回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市中区役所ホール
11/19	第19回 なるほど! なっとく!! 高次脳機能障害	後援	NPO高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」	朝日ホール
12/18	第56回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会ほか	名古屋文理大学文化フォーラム
2017年1/22、1/28	平成28年度知的障害者支援者養成講座	後援	社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館ほか
3/5	第35回耳の日記念聴覚障害者と県民の集い	後援	愛知県聴覚障害者協会	碧南市文化会館
3/9	映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』試写会	後援	朝日新聞社メディアビジネス局	名古屋・伏見ミリオン座

## チャリティー美術展に出展いただいた皆様

(50音順、敬称は略させていただきました)

## 【日本画】

## (あ行)

赤沢嘉則	秋本幸一	浅野忠	朝比奈陽心	安達英志郎	阿部穰	荒井孝	新井陽子
池田夏乎	石踊紘一	石踊達哉	石谷雅詩	石田幸誠	石塚青篁	泉東臣	伊勢巧
板垣青仁	市川保道	市野鷹生	市野晴美	市橋豊美	伊藤正男	犬飼白龍	井上耐子
井上北斗	猪熊佳子	今井武久	岩田壮平	岩田三枝	岩波昭彦	植田清子	上村淳之
鵜飼千佐子	臼井治	内田広己	烏頭尾精	梅原幸雄	江川照美	蝦名芳枝	大竹紫水
大月紅石	大野廣子	大矢時保	大矢十四彦	大矢紀	大矢眞弓	岡信孝	小川国亜起
小倉理山	落合初美	小山硬	折式田生子				

## (か行)

加藤美恵子	鎌田紀子	亀山玲子	川合和子	河合重政	川崎マリ子	川島睦郎	川島優
河津胖子	河村沙希	河本正(故人)		川本淑子	神林久子	菊池治子	岸野圭作
木村英史	金原保則	久芳道信	久保嶺爾	倉島重友	倉田富美	倉地千枝子	栗原幸彦
小泉智英	上泉蘭一良	国府克	小島光径	後藤順一	後藤紳也	後藤純男(故人)	
小林濟	小林裕子	小林正直	小林六博	小宮絵莉			

## (さ行)

齋藤陽	齊藤和	斎藤宗	坂元洋介	佐久間顕一	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明
佐治満澄	佐竹雲遊	佐藤晨	佐藤継雄	澤山輝彦	椎名保	重岡良子	品川成明
清水史郎	清水信行	清水操	下川立夏(故人)		下田義寛	霜鳥忍	杉谷彩光
杉山律夫	鈴木紀和子	鈴木竹柏	鈴木至夫	染谷聡之			

## (た行)

高越甚	高野純子	高橋新三郎	高橋浩規	田口愛子	武市齊孝	田島奈須美	多治見早苗
田代邦子	伊達良	田中重造	谷井恵紅	谷口蕙香	田宮栄子	田村仁美	月居和子
辻村和美	土屋雅裕	土屋禮一	道家珍彦	戸田みどり	殿南直也	富元秀俊	鳥山武弘

## (な行)

中岡友子	長崎莫人	中島潔	中島千波	中寫虎威	永田実子	中谷温男	中庭隆晴
中野貴雄	中野嘉之	中村宗弘	名古屋剛志	那波多目功一		新美葉子	仁木寿美子
西岡信子	西村勝廣	西村光人	西山英子	沼本三郎	野原真澄		

## (は行)

長谷川郁子	長谷川雅也	長谷川喜久	服部誠子	浜上俊和	濱田昇児	浜田泰介	林孝彦
林田啓江	林美枝子	日置宏輔	日比野光雄	平岩洋彦	平尾秀明	福本達雄	藤井康夫
藤原祐寛	二川和之	紅山幸水	堀川えい子	本間正英			

## (ま行)

前島恵里乃	前田龍一	馬瀬里子	間瀬静江	町田泰宣	マチダナヲ	松生歩	松浦主税
松木秋佳	松崎良太	松下明生	松下勝正	松原秀伸	松村公嗣	松室加世子	松本高明
真野尚文	三浦絵衣子	三上俊樹	三沢英伍	水江東穹	水谷勝子	水野收	三谷青子
三宅和光	宮崎観峰	宮本脩子	宮本和胡	三輪晃久	村井玉峰	村田晴彦	森田りえ子
森英明	森本政文						

## (や行)

矢澤貞子	安川眞慈	谷中武彦	柳績	柳沢正人	山口溪華	山口義明	山下まゆみ
山本真一	山本真也	吉岡三樹子					

(わ行)

若麻績敏隆 和田洸珀 和田利造 渡辺章雄 渡邊幸子 渡辺富栄 亘征子

【洋画】

(あ行)

青江健二 青木今陽 赤塚一三 浅井清貴 浅井義弘 麻田博子 遊馬賢一 東弘孝  
 安達康夫 渥美静子 阿部晴美 安部英夫 天野吉則 荒井孝 安藤公一 飯田道嗣  
 五百住乙人 池田清司 池田くみ子 池田清明 池田洋子 憇俊彦 石阪春生 石田聖子  
 石根三千代 石野紀美子 石野容三 石橋武夫 石原ミチオ 居島春生 磯崎みちる 板垣千鶴子  
 板倉美智子 伊丹重男 市村一 井手典子 伊藤郁 伊藤和義 伊藤清和 伊藤純子  
 伊藤隆 伊藤秀男 伊東博子 伊藤弘之 伊藤文男 井藤雅博 伊藤康夫 稲垣考二  
 稲垣龍雄 井上慎介 井上利哉 井上よう子 井口由多可 今関アキラコ 今村价男  
 入江観 岩崎雄造 岩田視司 岩田知幸 岩谷康世 岩淵晃三 岩本かずえ  
 イ・ワヤン・シーラ 上木伸之 植木美代子 上嶋スミコ 上田真澄 植月正紀 上野憲一  
 上野千代子 臼井恵之輔 碓井孝子 宇田喜久子 宇野孝之 宇野義行 生方純一 梅村徹  
 江上寿夫 榎俊幸 榎本多恵子 江本繪門 遠藤晴夫 王前一馬 大石つね子 大川浩市  
 大口邦子 大谷哲生 大津英敏 大西生余子 大西弘之 大淵繁樹 大見伸 大森良三  
 大山富夫 岡貞徳 緒方洪章 岡田全良 岡千秋 岡宏 岡本正尹 岡義実  
 小川幸紅 小川周二 小川満章 小川リエ 沖田廉平 沖中勝則 奥田喜一 奥谷博  
 尾崎功 納健 小澤一正 小沢眞弓 小田島えい子 織田義郎 乙丸哲延  
 小野仁良 小野知久 面矢元子 折本美祢子

(か行)

加古千恵子 笠井誠一 梶浦寿布 春日井正 (故人) 計盛健次 片山弘明 加藤助八  
 加藤千太郎 加藤照 加藤トオル 加藤信子 加藤吉春 金井順子 金丸悠児 壁下孝  
 上所幹彦 嘉見敏明 辛島一誓 (故人) 加覧裕子 川井一義 河野宗之蒸 川原比瑳子  
 河村侏世子 菊池郁子 菊地正男 菊地洋二 喜澤のり子 岸田淳平 岸田夏子 岸野昭  
 木谷利江 北見隆 北村美枝 北村美枝 橋田政明 木寺淳二 鬼頭恭子 木下實之  
 樹林雅生 木村信之 木村正志 木村優博 木脇康一 草壁隆 草野直己 久世瑠璃  
 久野和洋 久保輝秋 倉田政子 倉持正 黒川彰夫 黒木郁朝 黒木トシ子 黒沢信男  
 黒田秀方 黒田富紀子 黒田勝 黒柳弘行 桑島春彦 小池かよ 小泉元生 甲谷武  
 河本和子 五島まさを 小瀬垣宏郎 後藤昭夫 小早川協右 (故人) 小林千枝 小林英且  
 小林雅英 小林裕児 小柳晟 小柳景義 小柳幸代 小山オサム 小山成 近藤昭彦

(さ行)

斎藤孝弘 斎藤千川予 斎藤由比 佐伯浩 沙海苑子 酒井英利 坂本泰漣 坂本よしこ  
 櫻井孝美 桜井陽彦 櫻井幸雄 佐光亜紀子 佐々木馨 佐崎紘一 佐々木澄江 佐々木友幸  
 佐藤一成 佐藤勝信 佐藤潤 佐藤泰生 佐藤富美子 佐藤義光 佐野千津子 猿渡士郎  
 塩川佑子 四方道夫 七里和子 芝田キク 芝芳雄 嶋谷卓之 島田安雄 嶋津俊則  
 島村信之 清水亜悞 清水鉄彌 清水佳子 下園由莉 白川順子 白山扶土子 水藤澄子  
 杉浦充 杉本澄男 杉山重雄 杉山英子 鈴江章郎 鈴木貞子 鈴木延雄 瀬尾一嘉  
 相馬貞夫 祖父江弘幸

(た行)

醍醐イサム 大門正忠 高松政子 滝沢直次 滝滋 瀧下和之 瀧田依子 宅田忠正  
 竹内喜久江 竹内重行 竹内靖夫 竹内雍子 竹生節男 竹下功 竹中稔量 竹原邦樹  
 辰将成 楯岡和子 田中敏夫 田中仁士 田中良 谷川泰宏 谷本暁雄 田伏勉



玉有万範	玉谷明美	玉谷優	中條健史	塚田清	塚本英一	津川純子	津田勝利
堤慶	椿野浩二	鶴房健蔵	鶴見雅夫	鶴山好一	出口修	寺沢順子	土井邦晃
戸狩公久	戸高明義	富澤尚美	富田伸介	友成晴雄			
<b>(な行)</b>							
永井夏夕	長井宏之	長川清悦	長澤すみ江	長澤卓重	中嶋国博	中島千恵	中島裕司
中嶋美瑛子	中田順	中谷健三	長富博子	中西良招	中野治朗	中野洋一	長濱伶子
中村郁夫	中村英	中村光幸	中村實	中吉照雄	那須ゆいか	生井京子	榑崎重視
名和智明	難波忍	仁木雅子	西井義晃	西澤知江子	西野一郎	西村純子	西村壽郎
西山徹	新田ゆき子	丹羽直子	沼尾雅代	根萩齋門	ノブ・サチ	野村亜紀子	ノムラカツキ
乃村豊和							
<b>(は行)</b>							
萩原栄文	長谷岩友	長谷川和子	馬場一郎	濱田進	濱田弘康	濱本恵一	早川勝
林孝三	林茂樹	原田たかし	原尚子	原秀樹	半澤満	平井智子	平岩郁郎
平尾倫子	平川富貴子	平野昭子	廣岡清武	広瀬範	広田和典	深津静男	福岡幸子
福岡通男	福原満江	福満よさ美	藤井勉	藤崎恒頼	藤浪成喜	藤本正男	藤森悠二
布施久美子	船本清司	ブライアン・ウィリアムズ			別府忠雄	帆足ゆり	保ヶ淵静彦
保科浩一	細川進	堀井克代	堀尾一郎	堀太郎 (故人)		堀博喜	本田真貴
本間千恵子							
<b>(ま行)</b>							
前川雅幸	槇利光	牧野美代子	卷山昌宏 (故人)		正木茂	柁木高	マサル W
増本憲樹	松井茂樹	松浦正博	松浦安弘	松沢茂雄	松田貴美子	松原政祐	松村和紀
松室重親	三浦明範	三浦敏和	三浦勉	三木義尚	三塩清巳	水野伊津子	水野利詩恵
三谷祐資	源尊磨	三栞明子	三宅四郎	宮下由夫	宮田翁輔	宮平勉	宮本裕之
宮山博司	村井成好	村井洋子	村岡顕美	村瀬京平	村田伊佐夫	村田知子	村山容子
村山陽	森勇	森下ヒロ子	森田眞	森田幸宏	森文男	森本計一	森本有一
<b>(や行)</b>							
八木時子	安井啓二	安井正子	安富信也	安福葉子	柳瀬俊泰	矢萩武三志	
藪崎昭	藪野健	山尾才	山口静治	山口隆夫	山口美佐子	山下恒子	山下毅
山田精一	山田嘉彦	山手正彦	山本亞稀	山本悦子	やまもと悦子		山本澄江
山本虎雄	山本文彦	横井三郎	横山申生	横山了平	吉岡耕二	吉城弘	吉田伊佐
吉田清光	吉田淳一	吉田敏男	吉田緑	吉野清	吉村美令由	米田整弘	
<b>(わ行)</b>							
わたせせいぞう		渡辺明	渡辺卓美	渡辺正夫	渡辺良一	渡紀美子	

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木拳	粟生屋東洗	青山鉄郎	青山双男	赤毛敏男	秋野宏和
秋山信子	浅井秀子	浅蔵五十吉	浅原千代治	東正之	与勇輝	安達章	安達雅一
新歓嗣	雨宮弥太郎	荒井さつき	荒川達	嵐一夫	有松進	有本空玄	安藤栄子
安藤源一郎	安藤工	安藤敏彦	安藤則義	安藤日出武	安藤博允	安藤良輔	飯沼耕市
井尾建二	池田瑠子	石井視子	石川満	石橋裕史	石山静男	伊豆蔵幸治	伊勢崎淳
伊勢崎創	磯部晃	市川清鱗	市川博一	市川正美	市野悦夫	市野勝磯	市野元和
市野信水	市野哲次	市野英一	市野雅彦	市野正大	市野勝	一宮現	一宮侑
糸井康博	伊藤敦子	伊藤憲一	伊藤秀人	伊藤優	伊東祐一	伊藤雄志	伊藤良典
伊藤渡	稲垣太津男	稲垣幹夫	稲嶺盛吉	稲荷作	井上春峰	井上萬二	井上康德
井上楊彩	今泉今右衛門		今井政之	今西方哉	伊村徳子	井村まゆみ	岩瀬健一
岩瀬弘二	岩田溪山	岩渕寛	岩本孝志	植竹敏	上田哲也	上江田ひとみ	
上中剛司	上野昌則	浮田健剛	後田和孝	宇田川溪山	内野都	内堀敏房	内村壮之介
内村幹雄	内村由紀	内山政義	浦上光弘	うら林あきお		永楽善五郎	種田真紀
大泉讚	大角裕二	大上巧	大河内泰弘	大川正洋	大倉貞義	大倉真汝	大塩玉泉
大塩昭山	大須賀選	大角幸枝	太田和明	大谷昌拡	太田貢	大槻昌子	大野晃幹
大野耕太郎	大野昭和斎	(初代・故人)	大野昭和斎	(二代)	大野誠二	大橋聰子	大場匠
大樋勘兵衛	大樋朔芳	大樋長左衛門		大平和正	大平孝昭	大湾美枝子	岡田崇人
小形こず恵	岡田親彦	岡田春海	岡田泰	岡田裕	岡本篤	岡本白水	
岡本碧山(故人)		岡本芳久	小川真之助	小川長楽	小川二楽	荻原毅久	奥村公規
奥村繁豊	奥山峰石	小倉健	小椋範彦	桶谷洋	尾崎高行	小畑裕司	尾張裕峯

(か行)

角谷英明	各見飛出記	隠崎隆一	加古若菜	鹿島和生	梶原茂正	春日井範之	片山雅博
勝尾青龍洞	勝尾龍彦	勝田文博	勝田保子	加藤永司	加藤錦雄	加藤錦三	加藤溪山
加藤圭史	加藤敬也(故人)		加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤春定	加藤眞也	加藤尊也
加藤委	加藤唐三郎	加藤土史路	加藤土代久	加藤真雪	加藤美土里	加藤陽児	加藤嘉明
加藤亮太郎	加藤廉平	金子信彦	金子認	金重晃介	加納義光	樺澤健治	鎌田幸二
亀井幸一	亀井勝	亀田茂友	亀田緑光	加守田太郎	川井明子	川井明美	河合竹彦
河井透	河井敏孝	川合正樹	川上力三	川喜田敦	川北浩彦	川北良造	河口純一
川口保規	川崎精一	川手敏雄	川端近左	川端文男	川淵直樹	神崎継春	神崎正英
神戸義憲	菊池拳子	北大路泰嗣	北岡秀雄	北口夢石	北野勝彦	北村堅治	北村隆
北村英昭	九世吉向松月		吉向琮斎	絹谷幸太	木村玉舟	木村素静	木村展之
木村雅子	木村充良	木村盛伸	木村盛康	木村好博	清水六兵衛	工藤和子	久野勝生
栗林一夫	黒井千左	黒岩達大	黒木国昭	黒田正玄	黒田暢	黒田儀男	桑原みさ雄
鯉江廣	小出芳弘	厚東孝明	神山直彦	神山易久	小島憲二	小嶋太郎	小島直喜
小峠葛芳	小西陶蔵	小西朋子	小西博雄	小橋川清次	小橋川太郎	小林一雄	小林一富美
小林哲也	小林東洋	小林浩	小林文一(故人)		小林貢	小林勇超	小林理恵
小南吉彦	小室幸雄(故人)		小森邦衛	小谷内和央	小柳種園	小山貴由	近藤精宏
近藤裕久	今野春雄						

(さ行)

斎木勲	斎藤裕子	西念秋生	佐伯健剛	酒井甲夫	酒井紫羊	酒井田柿右衛門	
坂井貂聖	坂井教人	酒井博司	酒井芳樹	榊原勇一	坂手春美	佐久間藤也	佐々木厚
佐々木省庵	佐々木二郎	佐々木強	佐々木雅浩	佐々木悠紀子		佐々木禅	佐藤和彦

佐藤苔助	佐藤巧	佐藤典克	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮	佐野寛	寒川栖豊
寒川義崇	澤克典	澤清嗣	沢田重雄	澤田利光	澤田勇人	沢田豊山	柴岡信義
柴田雅章	芝山吉邦	島岡桂	島田耕園	島田緋陶志	島田文雄	清水潮	清水潤
清水醉月	清水剛	清水千代市	清水俊彦	清水万佐年	志村ふくみ	志村洋子	祝嶺恭子
庄村健	白武初芳	白幡明	城間榮順	新庄貞嗣	新谷一郎	水津和之	末吉清一
杉江善次	杉本貞光	杉山ひとみ	鈴木藏	鈴木環	鈴木五郎	鈴木三成	鈴木爽司
鈴木大三朗	鈴木富雄	鈴木秀俊	鈴木量	砂田正博	諏訪蘇山	関守高	瀬津純司
曾我阿嬉子	十河慶子						

(た行)

平良敏子	高岡久美子	高木廣司	高聡文	高橋彰	高橋新六	高橋染齋	高原卓史
高見勝代	滝川幸志	滝口和男	瀧口喜兵衛	瀧口大喜	武石和春	竹内真吾	竹内眞三郎
武田敏男	竹西予州	竹之内彬裕	武村豊徳	竹村繁男	田島正仁	田中忍	田中源彦
田中悠子	棚橋淳	谷川仁	谷口幸二	谷口正典	谷清右衛門 (五代)		谷野明夫
谷本洋	田沼春二	田原陶兵衛	玉那覇有公	玉村松月	力石俊二	塚原三千勝	塚本治彦
塚本満	辻聡彦	辻常陸	土谷道仙	土田友湖	土屋典康	土屋順紀	筒井修
筒井辰也	都築青峰	恒岡光興	鶴田明子	鶴田悦子	出口清廣	手塚央	寺沢香織
寺田みのる	天坊昌彦	徳川浩	徳田明美	徳田八十吉	飛井隆司	富岡大資	豊住和廣
豊場惺也	豊本信子						

(な行)

長江哲男	中尾彰秀	中尾英純	中尾恭純	中里太郎右衛門 (十四代)	中里壽	中島翁助
中島卓	中嶋虎男	中島宏	中島保美	中田一於	仲田錦玉	中塚佐一
中根秀介	長野恵之輔	中野亘	中村眞一	中村雅明	中村豊	名倉鳳山
新野素子	新美吉昭	二貝清一	西浦武	西尾茂	西尾瑞舟	西尾武人
西川實	西功一	西田真也	西端正	西端春奈	西村源治	西村松逸 (優)
二十歩文雄	根崎隆博	納富晋	野崎賀代子	野嶋峰男	野田東山	

(は行)

萩井一丘 (故人)	萩井一司	迫二郎	橋田裕司	橋爪靖雄	橋本昇三	蓮善隆
長谷川文陽	波多野善蔵	波多野英生	羽田登	波多野正典	麦畑耕生	花輪滋實
馬場九洲夫	馬場弘吉	浜田英峰	濱中月村	早川嘉則	林慶六	林健人
林正太郎	林寧彦	林亮次	原田拾六	ピーター・ハーモン	稗田寿炎	東田茂正
東直人	樋口雅之	久田邦男	樋上千哲	平野祐一	平野由佳	廣澤益次郎
広田優美子	深石美穂	深川巖	福井由美	福岡琢也	福田参平	福野道隆
藤岡香奈子	藤岡周平	藤田潤	藤村州二	藤本智弘	藤原敬介	藤原康
藤原楽山	冬柴文廣	古堅幸雄	古田一	古田好孝	古谷徹	古家喜義
星野友幸	細江稔	堀川十喜	堀俊郎	堀菱子	本郷大田子	本多亜弥

(ま行)

前田昭博	前田泰昭	前端春斉	味舌隆司	眞清水藏六	増村紀一郎	松井康陽	松尾潤
松尾剛彦	松吉	松崎健	松嶋弘	松林正人	松村仁団望	松本為佐視	松本勝哉
松本佐一	松本尚	松本達弥	松本政昭	松本正雄	松本良夫	丸田延親	三木表悦
水野敬子	水野静仙	水野銘一	水野富弘	水野教雄	水野真澄	溝上藻風	三ツ井詠一
美藤康夫	皆川隆	宮川香齋	三宅織部	宮田亮平	宮地生成	宮地陶博	宮本直樹
宮本茂利	美和隆治	向山文也	村井一郎	村上東市	村越風月	村瀬玄之	村田肇一
村山明	室瀬和美	モーガン・ルイス		百田暁生	森一蔵	森一洋	森勝資
森克徳	森里秀夫	森大雅	森田芳伯	森陶岳	森陶山	森本英助	森泰司

森脇文直

(や行)

屋我平尋	安田道雄	安田れい子	柳橋修二	柳橋進	山内厚可	山内一生	山岡公彦
山岡宏子	山口堅造	山口貞子	山口美智江	山口みちよ	山口義博	山口良子	山路和夫
山田耕作	山田孝三	山田孝藏	山田晋一朗	山田進二	山田ひろみ	山田正博	山田みどり
山田義明	山近泰	山出勝治	大和潔	大和努	大和保男	大和祐二	大和義昌
山中辰次	山本象成	山本眞輔	山本拓男	山本秀吉	山本雄一	山本竜一	湯村京子
横山尚人	吉賀将夫	吉川千香子	吉川正道	吉田宏信	吉田真人	吉田美統	吉田喜彦
吉富文代	吉本正	與那覇朝一	米田和	米田萬太郎			

(ら行)

樂吉左衛門

(わ行)

若尾経	若尾圭介	若尾利貞	脇田宗孝	湧田弘	和田桐山	渡辺松華 (礼而)
渡辺琢哉	和田一人					

【版画】

(あ行)

安東菜々	池上壮豊	池間英治	井上勝江	植野史煌	浦田周社	尾崎淳子	尾崎斎晃
小原喜夫	園城寺建治						

(か行)

片山誓泉	河内成幸	木嶋ちさ加	木村秀樹	日下賢二	日下里美	國安珣子
熊谷吾良 (故人)		古賀章	小崎侃			

(さ行)

サイトウ良	佐久間嘉明	桜井貞夫	塩田みはる	志野和男	須田敏夫	世古剛
-------	-------	------	-------	------	------	-----

(た行)

高部多恵子	田中喜一	辻憲	鶴岡さゆり	富田文雄	富張広司
-------	------	----	-------	------	------

(な行)

野田哲也	乗兼広人
------	------

(は行)

浜田浄	浜本幸男	原三佳恵	藤田慶次	二見彰一	船坂芳助	星野美智子	堀江良一
-----	------	------	------	------	------	-------	------

(ま行)

増田陽一	望月厚介
------	------

(や行)

柳沢京子	山本桂右	山本光生	吉田賢治	吉田正樹	米倉泰民
------	------	------	------	------	------

(わ行)

渡辺達正	渡会純价
------	------

## 【書】

## (あ行)

浅井機山 綾村捷子 新井光風 飯高和子 池田桂鳳 石飛博光 石本法子 江口大象  
大石三世子 岡美知子 小川東洲 尾崎邑鵬

## (か行)

加賀山香尚 榎本桑牛 杭迫柏樹 黒田賢一 小島寿 後藤汀鶯 小伏竹村

## (さ行)

佐藤煒水 師村妙石

## (た行)

高木聖鶴 (故人) 竹中青琥 田中光穂 鼓芳石

## (な行)

中川裕皓 中村秀峰

## (は行)

藤野北辰

## (ま行)

増永広春

## (や行)

山添鼎石

## (わ行)

渡邊笙鶴

## 【著名人】

## (あ行)

藍弥生 青山剛昌 吾妻ひでお 有馬頼底 安齋肇 石田隆 市田ひろみ 井筒啓之  
稲畑汀子 植田豊弼 上野道善 宇野亜喜良 江上泰山 蛭原あきら 王貞治 太田比呂次  
大野玄妙 小澤一雄

## (か行)

片山治之 金子兜太 かわぐちかいじ 河村立司 きたざわけんじ 北見けんいち  
きむらゆういち 清原なつの 工藤直子 黒井健 河野太通 小林太玄 小林隆彰  
小山幸容

## (さ行)

さいとう・たかを 酒井駒子 狭川宗玄 佐藤邦雄 三遊亭円楽 下瀬翠 下村瑞晃  
宿輪貴子 菅原信海 鈴木英人 千玄室 千宗左 千宗室 千宗守  
ソリマチアキラ

## (た行)

高田明浦 高田良信 高橋真琴 多川俊映 田島征三 田代卓 立本倫子 谷川浩司  
ちばてつや 中条春野 趙治勲 辻和雲 寺門孝之 唐仁原教久

## (な行)

永井ひろし 中原誠 なかむらるみ 鯉江光二 成瀬國晴

## (は行)

長谷川大眞 羽生善治 はまのゆか 林静一 ばんば三郎 ヒサクニヒコ 日野西光尊  
藤子不二雄<sup>㉔</sup> 古川タク

(ま行)

前川しんすけ 前田昌道 増本大二郎 松浦俊海 松長剛山 マツモトヨーコ 松本零士  
 美樹本晴彦 水谷八重子 村上康成 森清範 モンキー・パンチ

(や行)

やくみつる 八代亜紀 安井寿磨子 安彦良和 矢吹申彦 山口哲司 山口はるみ 山口マサル  
 やよいとしん 蓬田やすひろ

【Next Art 展推薦作品の制作者】

井関律葉	うじまり	大嶋仁美	大庭咲子
北川安希子	金茂華	清見佳奈子	糸原愛
斉木駿介	佐藤健太郎	下重ななみ	社本奈美
菅野瑠衣	SOUTA	田村美智子	津田翔一
冬乃太陽	永井優	中山てな	西村万里
長谷川知美	秦絵里子	埴淵祐子	福田和哉
古川博崇	細川成美	三輪瑛士	吉田花子

おざきしょうた 遅野井梨絵 鏡安希





## ご寄付をいただいた皆様

2016年度に全国の皆様から当事業団に寄せられたご寄付は、総額1億9462万1727円にのぼりました（当事業団の東日本大震災救援事業への寄付を含む）。朝日新聞読者をはじめ、企業、団体、グループ、学校など、多くの皆様が当事業団を寄託先として選んでくださいました。また、近年は香典返しや遺贈の送り先に当事業団をご指定いただくことも増えてまいりました。ご寄付いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた温かいお志はこの事業報告で紹介している、さまざまな福祉事業に充てさせていただきます。今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、ご寄付いただいた皆様は次の通りです（敬称略、順不同）。

※掲載スペースに限りがあるため、東日本大震災救援事業へご寄付いただいた方のお名前は、匿名希望の方とともに省かせていただきました。

- ▼北海道：荒井道夫、石川義昭、石橋昭二郎、伊藤公雄、井上國男、浦山澄雄、大野万壽子、奥田勝重、小倉由美子、加藤佳夫、川端暢文、児玉ゆみ子、坂井洋一、桜井智康、清水隆、東海林昇、鈴木真知子、須田勇、高木昭一、武井和子、竹田勝・絹子・川本まき・貴也、竹原三哉、田島優、長内諄子、東重孝、広瀬正文、藤田光洋、本多彦雄、松原陽介、宮地昌代、村井宏、森千草、山崎悦子、山崎等、山崎洋子、吉田雄一
- ▼青森県：工藤協志、佐藤祐逸、佐藤實、乳井フミヨ、内藤理恵子、山崎みゆき
- ▼岩手県：飯島仁、石川洋子、小金森勝治、佐藤麟子、筑後好江、宮沢新聞店
- ▼宮城県：日下英夫、古跡俊子、菅原裕子、戸田光昭、松川勝、三浦七郎、宮城妙子、目黒光子、吉田正子
- ▼秋田県：飯塚久雄、円通寺、斉藤正敏、佐藤敬子、菅原芳徳、須藤礼次、高橋正喜、鶴田貢、花田保男、藤本正孝
- ▼山形県：遠藤國勝、今野友子、佐藤芳美、佐藤玲子、島津博達、菅原昭夫、米沢市立第六中学校3・4組
- ▼福島県：阿部勇、安部宮子、ASA会津若松、ASA福島北部、木村陽子、小山敦、高橋隆、樋口勇、星熊雄、本宮嘉代子
- ▼茨城県：相川俊明、(有)朝日見和、飯竹一広、板井英治、大原和夫、大部克美、大村三樹男、岡山伸一、荻原奉祐、奥沢裕二、粕谷日出夫、金子篤志、川島房宣、河村博信、栗山歌子、小林栄喜、駒井英子、櫻井一郎、櫻井忠男・邦子、佐藤正喜、柴田多恵子、下重美智子、鈴木弘康、千葉美代子、筑波研究学園専門学校、辻久茂、島海省吾・喜美子、仲根聖夫、根本龍司、林誠一、星野秀雄、松井幸一、宮崎千勝
- ▼栃木県：縣君子、新井正男、岡田明子、小野勇、鎌田正信、川田玲子、木村克二、車田孝夫、齋藤恵子、塩野谷信夫、添谷文子、滝童内のり子、手塚正志、二渡芳雄・賀代子、白鷗大学足利高校、平野敬、星野恵子、矢野正義・みゆき、山岸安子、湯浅末吉
- ▼群馬県：伊藤恵美、大澤誠、大塚敏文、小川新一郎、木村久子、佐俣奨、柴田幹雄、清水明貞、下城啓年、鈴木憲一、田所とみよ、田中嘉親、永島勇、中島和史、中島キヨ、中島友之、花岡卓二、村田伸宏、村田ゆかり、森秀子、矢作正夫、山田順子、山丸幸子
- ▼埼玉県：相原幸子、青木克美、青木登喜夫、青木菜穂子、朝日新聞「発送OBのつどい」、荒井健次郎、荒木正二・朝子・伸夫、飯島進、五十嵐公輝、石井康雄、石原幸麿、石山芳子、泉英雄、磯村悦子、井田佐和、伊藤裕章、井上桂子、猪俣俊晴、上杉清秀、上杉美子、潮登久子、内田英利子、内山豊美、ASA小手指・狭山ヶ丘、遠藤靖夫、大木まち子、大崎洋司・セツ子、大島昭義、大島辰幸、大関茂・とみ子、大野敏子、岡崎弘子、小田切豊雄・正子、落合勝安・一江、落合富士也、笠原政二、春日部厚生クリニック、加藤徹、上岡悦子、神谷里子、川上豊治、北脇央子、木村義熙、鯨井誠、鯉登信義、小金沢憲男、古郡嶽雄、子育て応援隊むぎぐみ、小林治美、小室保尚、小山裕子、近藤俊子、齋藤淑子、坂下節子、坂本哲也、坂本幹夫、佐藤則夫、佐藤祐子、柴田眞樹、澁谷清治・克子、島村利雄・清子、東海林英二、須賀弘、鈴木菊枝、関根武、関本千恵子、染野彌生・孝吉、高木恒太郎、高木正俊、高佐屋三郎、高橋英二、高橋光代、高橋保邦、田嶋なみ、田林晃、津田保慶、寺田英行、富原繁則・利江、中島淑子、中村ムツ子、名古屋悦男、西野優子、西森幸雄、橋本喜久雄、羽石史生、馬場常正、浜中隆彦・博子、早川允、林年男、原満、伴俊子、廣澤成昭・攝子、深井勝己、福田利幸、藤田臣一、古谷信雄、堀口幹男、町田金治、松崎繁子、松谷一雄、松田光、松本繁雄、松本輝子、松盛将三、宮本眼科医院、村岡美佐男、村田みき子、茂木克己、森村幸市、やきとりひょうたんお客様一同、安河内功・弘子、柳本晴子、矢野佳子、山内鉄工、山田昭次、山根克己、山本貴、山本治男、湯田明美、吉沢郁男、吉田アオイ、吉田栄吉、吉成正四・信子、米元直幸、陸名昇三、渡辺茂樹、渡辺利夫、渡辺洋右、渡辺美代子
- ▼千葉県：相上洋子、愛甲みよ子、朝日カルチャーセンター千葉（クリスマスチャリティバザー）、天野昌紀、荒木忠直、飯田義仁・弘子、五十嵐嗣郎、池田キコリ、池田千寿子、石井紀郎、石井正男、石井從道、石倉仁、石田博道、泉岡和行、井添敏勝、磯崎志郎、磯辺栄、市原弘規、伊藤妙子、稲葉喜紀子、今枝知、上野一則、宇都宮利善、浦田義一、ASA柏中央・柏増尾、ASA柏中央無声映画上映会、榎本奈乎美、大谷洋平、大土勢子、大野容子、

大橋守昭、大村泰司、岡部匡克、小川裕、小河原輝子、奥村伊佐夫、長田勝男、香川史路、笠原光夫、勝美智代、川島正治、川島敏輝、川田雅昭、川野歳治、神崎一臣・みどり、輝星栞、木村スミ、清古高志・裕子・依子、清宮昌子、小池、小池菊平、小泉惇子、小泉孝一、小島三郎、小宮山良男、近藤純子、近藤洋一郎、今裕之、齊藤五十糧、斎藤たかし、斎藤勉、齊藤洋子、佐々木信代、佐藤梅代、佐藤純、佐藤鉄男、澤田正之助、嶋田博子、下野千晴、下村重孝、白浜雄三、末藤正樹、菅原清朔、杉山勝利、杉谷道子、鈴木敬子、鈴木祐輔・泉、須藤彰、関根位房、高木逸子、高梨健一郎、高野知子、高橋巖、高橋清、高橋勝、田口久雄、田口正治、田口泰子、竹内達、竹内知子、竹内阪藏、立田文夫、田中恂、谷亀さち子、「小さな親切」運動ちばぎん支部、千葉幸子、千代田走友会、土田芳孝、都丸司、とみうら薬局、富永貴子、富永啓信・富永コー太、鳥居千恵子、内藤たぬ・ビス、内藤恭子、長塚猛・一枝、中野昭平、中野澄子、中野好、中村治子、成田能美、野口明子、橋光子、長谷川寿々子、蜂谷佳子、林常蔵、林道子、東國人、人見幸雄・良、廣岡理昭、広田栄次郎、福地美津子、藤代直紀、藤谷玲子、藤田康人、藤田陽子、船山年洋、古川喜一郎、星野博、細田康子、松田和夫、松谷順子、松戸いづみ幼稚園父母の会、松本みどり、三浦洋、三石昭、宮本民雄、武藤弘、望月金夫、森弘、柳橋雅子、山内幸夫、山口昌夫、山田松司、大和均、吉岡真利子、吉田勤、善當治昌、楽天地オアシス天然温泉法典の湯

▼東京都：(株)アイ・ビー・サプライ、青木房江、青木由子、青山勇、我妻多賀子、阿久津百合子、浅井郁子、浅賀登志子、浅倉美智雄・久子、朝日新聞東京本社販売局、朝日トップス(株)社員会、天野重夫、安室礼三、鮎澤知枝子、鮎澤正信、荒牧澄子、飯塚富沙子、五十嵐信日子、井口澄子、池田久美子、池田信三、池田康・紀子、池田裕子、池辺史生、石井明美、石川医院、石川儀市郎、石川純一、(有)石ばし、石村忠悦、石母田京子、泉泰祐、磯貝博司、市川泰子、伊藤重定、伊藤憲彦、伊藤初江、糸数恭子、稲垣範子、稲垣里湖・稲垣久子、稲村智恵子、井上彰、井上勲、井上苑子、猪忠彦、今道小枝子、岩井和郎、岩井恵、岩崎明生、岩衝多嘉子、岩本高治、上野裕子、上原京子、宇佐見清・勝美、薄井信子、宇都野さきゑ、宇野勝己、梅園敦子、梅本益雄、ASA白金、ASA豊玉、ASA八王子南口、ASA府中西部、ASA町田木曾、榎本淳子、榎本正人、遠藤朝彦、遠藤イヨ、遠藤早苗、遠藤フジコ・マリコ、大木静江、大越啓次、大沢章、大澤金政、大島尚子、大谷豊・裕子、大塚隆、大塚榮壽、大塚美榮子、大羽富美子、大房順雄、大藪龍子、大山衛、小笠原将・典子、岡田和義、岡村満、岡本一郎、小川美恵子、押田佐知子、乙黒耕一、小野塚厚子、甲斐千榮子、垣平博臣、角田邦明、各務正吾、鹿児島玲子、笹原和子、風間久子、柏豊三郎、春日直也、家政科会、片岡史郎、勝田洋子、加藤昭、加藤金之助、加藤徹郎、加藤直行、加藤ミチ、加藤幸雄、金澤恵子、金子正二、金田経男、金丸昊一、鎌田昭次、鎌田直子、川口和子、川口俊二、川端章一・百代、川本敏郎、菊池孝、菊地まり、菊谷都代子、岸明子、岸修、岸野正一、岸本弘、北條猛、北村満子、(株)枡勝会、木下進、木下澄江、木下照子、木村佳代子、工藤進、功刀正仁、久保田勝代、久保田正、蔵方宏昌、倉持雅子、倉持泰雄、栗城理一、栗原一郎、栗原勝雄、車田和義、呉美佳子、黒須誠、小池咲子、小石時江、小泉美英子・佑馬、興野清、小勝竹雄、小島武子、小島靖、小関裕子、巨勢典子、小平三郎、古寺貞夫、小林一正、小林金太郎、小林建次、小林宏、小林光子、小林雄太、小船次子、小峰真紀子、古明地幸勇、小山幸子、小山善生、小山亮一、近藤和恵、斎木孝道、齋藤喜美子、齊藤善五郎、齊藤豊、齊藤洋子、坂井昭七、酒井珍儀、境井敬昌、坂井則幸、境義弘・静子、坂本敬、坂和義、桜井浩子、佐甲和、佐古浩敏、佐々木典代、佐竹芳浩、佐藤きぬ江、佐藤澄、佐藤晴男、佐藤裕子、佐藤ゆう久、佐藤梨恵、眞田澄子、佐野武房、佐野安喜、佐野芳子、澤田稔子、JXエネルギー労働組合東京支部、JXエネルギー労働組合本社支部、JXエネルギー労働組合本部、重本珊志郎、志田瑛子、柴田恵美子、柴田紘子、芝原克己、Jibe、嶋立次子、島美喜子、島村俊雄、島村百合子、清水太一、清水勝、白井捷子、白石スミ子、新生企画、鈴木昭二、鈴木正次、鈴木禮吉、鈴木敏行、鈴木智子、鈴木秀子、鈴木誠、鈴木正義、鈴木ユリ子、鈴木洋子、須田明子、炭田千賀子、諏訪眞司・邦子、諏訪直子、瀬木邦久、関光恵、世田谷区朝日プリンテックバンド、芹澤晃・チエ子、仙田勝、仙頭邦子、相馬真佐季、染谷理一、大東学園高校ものづくり研究所部、高岡信男、高木文博、高島志津、高田早苗、高梨輝雄、高橋薫、高橋さち子、高橋正治、武居ユキ子、武内徳博、竹田浩治、武田稔・武田桂子、竹中勇、竹林忠夫、田代田鶴子、多田廣道、橘ダンススクール、田中修、田中喜久子、田中理恵、谷口一郎、田部美智子、田松一之、玉蟲裕子、田村清明、田谷和子、知高弘、珍田孜、辻久美子、土田豊・あつ子、土屋雅幹、土屋翠子、都築昭二、角田弘見、鶴田由紀子、手塚統夫、寺島幹市郎、寺田浩之、寺田眞文、東京灯芸家協会、東間紘、都甲雄介、戸田盛忠、鳥羽ノリ子、飛田満彦、富村憲一、友永靖治、友久英孝・美知子、豊田俊夫、内藤齊、上岡長次、中川曉、中川順子、中川節子、永作孝、長迫節郎、中澤隆太、永島京子、中島省三、中園けい子、長友千枝、中名生明、中野英次、中道秀和、中村斐子、中村寿美、中村敏夫、中村敏子、長山美佐子、永山義高、中庄谷康弘、名取こずえ、名取光広、鳴海忠市、西川仁、西郡喜久、西野皓三、西原潤二・西原湖水・長野莉子、新田クリニツク、沼沢良樹、野口忠、野口俊也、野本登、萩原敦子、橋中孝枝、橋本功、橋本大定、畠中彰、波多野千城、丹生康之、浜田隆、浜中史子、林敦子、林貞次郎、早野良子、原環・千恵、原嶋美雪、原久代、半沢信芳、伴亘、日朝秀宜、日上操、東原勲、樋口経雄、日乃本錠前、兵頭圭介、平川恒久、廣瀬明、広瀬良明、深川スミ子、深沢信雄、深野志津子、福井一彦、福井正行、福岡紀子、藤井裕子、湊崎勝憲、船渡しげ子、古川キヨ子、古河ななよ、古屋智子、星野富榮、堀恒子、本浄寺、本多武、本間明生、眞板幸子、前川信朝、前島和子、牧野たけ、増尾清、増田勝弘、増田利子、増田実・益子・智子、増田善計、町田重光、松浦夏綺、松村敦子、松村百合子、松山敏子、丸千鶴子、三上義一、三澤邦夫、水溜紫乃、水上篤・よし美、水

上正剛、宮崎かちこ・亮、宮澤美子、宮代良治、宮田誠志、向井昌子、武藤みきこ、村尾静彦、村上恵子、村儀栄一、村田三永子、目黒進、持田政彦、望月紘一、望月蘭子、もつやき松っちゃん、元嶋良通、森昭徳、森島賢治、森麻希子、両角晃一、諸寿子、矢島伸治、山内芳男、山縣良之助、山岸悠子、山口一男、山口なを子、山口文治、山口八千代、山崎澄子、山崎敏光、山崎英彦、山下妙子、山下泰子、山住美津子、山中益子、山村隆雄、山本雅彦、山脇学園中学高等学校、行永小枝子、吉澤忠一、吉澤禮子、吉田雅一、吉森浩子、吉原幸一郎、レグミ和華子、若山麻美、鷹尾亨・愛子、和角勉、和田和子、渡邊伎美、渡辺希世子、渡辺正一、渡辺友江、渡邊秀子、渡邊道紀、渡邊康子、渡邊芳子、和田裕久、渡部通英

▼神奈川県： 會田秀介、中澤誠、赤津正美、赤穂敏也、秋山康吉、浅木クリニック、浅場馨、朝日新聞青葉台北部社員一同、朝日新聞販売、網代和枝、有田茂、安藤章子、五十嵐正司、池川明、池田良子、石井洋子、石川和子、石川忠雄、石村湧恒、磯崎功、板倉秀男・和子、伊坪純一、出浦進、伊藤禎子、伊藤泰爾、伊藤正孝税理士事務所、伊藤道子、今井孝一、今村慶子、岩田裕子、上杉寿美子、上田有司・みどり、臼井敏雄、浦一修、榎エイワ、ASA大沼・古淵・相模大野、ASA大船西部、ASA大船中央、ASA大船南部、ASA大船北部、ASA北鎌倉、ASA田園田奈従業員一同、ASA中山、A. フミコ、m. m.、遠藤雄右、大川治衛、大久保多美子、大越政子、大滝良雄、太田彝、大谷淑洋、大貫賢治、大野圭子、大庭浩子、大平千枝子、大堀末雄、大矢征、大山順子、大山行雄、大和久桂子、岡田信子、小栗正文、小沢英雄、小野明子、笠原一豊、春日廣之助、加藤伊佐夫、加藤勝久・美佐子、加藤幸一、加藤清二郎・富子、加藤敏平、神奈川県少林寺武道競技連盟、金子公行、鎌田佐規子、神尾吉臣、河合菊雄、かわぐち皮フ科、川島ふさえ、河原幸子、川村康子、瓦田信彦、菅野喜和、菊池將浩、木津正之、木村明義、木村成一・瑞千代、木村晴信、木村ひな子、桐木正子、久保早苗・美代子、熊澤龍雄、倉知千枝子、高口湧太郎・颯太郎、額額蒼洲、古宇田伸子、小杉弘、小林克則、小林清重、小林清吉、小針和昇、小松憲司、小松久子、小路龍彦、小柳節子、近藤勝、今野博、斎木和子、斎藤信子、斎藤守弘、佐伯泰志、阪井こう、酒井スエ、坂井田実、酒井峰男、坂田廣愛、柵木三郎、桜井祐二、佐藤英司、佐藤順二、佐藤正・久美子、佐藤碧士・正史・美奈子・恒久、猿田逸夫、沢田叶也・君代、澤田君代、澤田叶也、三和看護婦家政婦紹介所、篠原勇、篠原福枝、島和子、清水侃、志村三知子、下山百合子・福元シヅエ、常泉寺、湘南新聞販売、白神武男、代田治彦、新川雅子、新原啓、水彩画蒼風会、杉本久、鈴木一平、鈴木多津子、鈴木光彰、鈴木康子、鈴木巨、須藤一夫、関ひさ、瀬谷淑子、瀬戸三雄・美智子、箭野功、大徳恵美子、高崎昌司、高崎修、高橋勝行・厚子、高橋虎彦、高平孝一、竹市義弘、竹内晟・淑江、武田敏、多田梅子、伊達知史、館野美穂、田中さわこ、田中徳一、田中正男、谷信男、たまなわ新聞、千葉エミ、辻誠、辻道子、堤政明・幸子・真由子、寺田ひろこチャリティコンペ参加者一同、濤崎恭平、東城和也・弘子、富田佳志、富永ウタ子、富永浩子、戸村隆子、富山重成、内藤正人、中尾英一、長岡勝美、中川昌仁、中川美榮子、中後きみ、中島静江、中島善範、中野泰子、中村志津子、中村宏、中山豪夫、名取悦子、成田公子、鳴鶴健次、新倉博文、西富房江、西村多聞、根岸美恵子、野澤美重子・ヒロ子、野津紀美子、能登屋良子、野村弘子、長谷川英樹、畑志津子、湊慶紘、花澤武、馬場千枝子、濱清造、半田幸子、東野省司、菱沼保幸、肥田敦美、百田陽一・紀代、平田キヨ、平本俊弘、弘田茂穂、福田稔子、袋康男、藤澤節子、藤田まさみ、藤野芳郎、藤原美佐子、細川真知子、堀敏美、本田昌子、前畑ゆかり・章子・京子、前山寿一、松岡圭子、松澤有人、松下宏子、松本力、丸山純一郎、丸山久子、三木昭・明美、水口妙子、水谷則子、三谷親子、宮坂俊充、宮崎壽美、宮里勲、宮下美也子、麦倉啓、望月節子、望月洋子、森川恵三、森九三八、森晃一、保川周治、山口喜一、山崎信子、山本芳枝、由井平和、湯本英二、横井恵美子、横山田鶴子、横山美智子、吉澤徳三、吉原恵子、渡辺逸郎、渡辺克己、渡辺弘、渡辺当美

▼新潟県： 有田好、石黒正子、石田光芳、岩崎新聞店、大矢玲子、尾崎良順、尾野照雄、風間淑子、金子美智子、工藤房子、黒田喜久二、小林町子、斉藤陽一、佐藤定、佐藤寿美子・洋子、佐藤宏、田中毬子、福島堅三、八百板秀男、山崎貞子

▼富山県： 三上徳次郎

▼石川県： 木場清子、斉藤薫、高見薫、橋爪和男、山越栄幸・喜美子

▼福井県： 川口雄二、吉田とみ子、吉田正美

▼山梨県： 赤尾和子、小野忠幸、倉澤角三、小平邦子、田中耕太郎、中沢久子、長田良知、藤原静男、三森あき江、望月正

▼長野県： 飯森震一・ひろみ・かおり、上田腎臓クリニック、ASA松本南部、大橋春武・友子、小野塚伊伊二、笠原忠夫、小坂健介、近藤幸夫、篠田仁宏、清水栄治・もと子、白鳥さつき、新海信雄、塚田修、平田英之助・歌子、洞澤茂、宮沢東洋雄、望月正子、師岡恒司、山崎英俊、山本英男、横地泰英・美智子

▼岐阜県： 飯沼清延、大迫輝通、大平春子、尾関たみ代、加藤健彦、熊崎喜久子、汲田兼利、坂田茂樹、正者敬一、田中真理子、塚原貴代美、長谷川弘、前田晃造、森園司、八賀弘、山根長利、吉江研一、吉田伸子

▼静岡県： 阿形耕三、浅川浩慶、石上弘美、石田敏、今村重美子、岩谷三四郎、上杉孝次、内山さわ子、梅原保丸、大嶋正章、金原鏡子、甘露寺、稀代幸雄、小林淳子、齊藤和子、指出泌尿器科、佐野勉、静岡県高等学校野球連盟、柴いく代、芝田正樹、鈴木能生、鈴木弘之、多々良幸子、徳留三男、中山学、西方さかゑ、西澤修・志乃世、日本作法会、服部浩、久村洋子、晝間登久子、廣瀬壽子、広瀬京子、宮永純子、望月勝男、矢部香、山本慶子、横石幸武、吉川正宏、吉田三毅夫、龍神美穂

▼愛知県： 青木茂、青島健一、浅野明美、浅野哲治、安藤君衛、安藤政男、飯田郁美、池内良照、石黒世津子、伊藤健、伊藤智章、稲垣脩世、稲垣克己、今井泰生、今枝鉦子、白井和子、内海紀章、映画「わたしは、ダニエル・ブレイク」

- チャリティー試写会、ASA日進、ASA丸山、王丸秀一、大石文恵、大島和海、大槻昌男、大橋舜二、岡本昭子、尾関博、尾野忠雄、小原政允、掛川五郎、加古善輝、加藤孝平、加藤誠・みづ江、神谷一嘉、川口澄男、木村佐登美、木村多化子、黒谷次郎一、小崎広治、斎木清治、三枝妙子、堺沢範一、坂井忠夫、坂野一博、坂野澄子、櫻井龍彦、笹淵千紗、佐治満里子、佐藤孝一、澤田創司・みよ、GEC英数教室、柴田紀作、渋谷正一、菅原時子、菅原光男、杉本宗孝、鈴木主典、鈴木章二、鈴木靖之、関常男、高橋明・悦子、田中清、田中真砂子、谷口国雄、中部女流書道会、永井盛人、長尾浅吉、中嶋恵子、中嶋静夫、永田孝夫・久枝、朝日サポートセンター従業員一同、名古屋美術青年会、名古屋ゾントクラブ、名古屋深雪会、セツ村繁、安本彩希子、西出悦子、野田あつ、野田一三、野武二郎、服部明、早川七郎、早川常彦・祥子、平手勝、平野昭一、深谷攻、藤川鈕子、藤城郁美、藤田直敏、古田明夫・ハツ子、ヘンデル協会、蓬萊賢、堀田ひさ子、前田豊子、松尾信子、松下美重子、松田照子、松野辰弥、松本直良、水谷正英、三輪菊夫・栄子、本井暁子、森常一、森本順子、森本末男・久代、森安千文、安間哲史・正子、山口徹、山路良子、山田恵子、山中寛紀、山中康彦、横井龍一、渡辺剛
- ▼三重県：渥美敏子、井坂世紀子、石野和子、和泉優・弘子、大高信浩、亀井百合子、葛山憲生・由美子、北本和由、小西伸夫、酒井ひな子、杉下隆男、土肥昭治、富田清志、富田高良、長川光男、中村文世、野呂純一、平井玲子、藤本恭子、前川昌房、真澄寛、松野文子、水谷皓子、森隆男、柳瀬恒範、山本浅夫、山本克己、渡辺真知子
- ▼滋賀県：石名栄佑、石原愛子、井上ミチコ、宇野紘子、金城美代、小林初子、重本ひさの、辻寅建設、中野純二、平井慎一、藤野滋、松浦喜美子、宮崎正彦
- ▼京都府：朝日栄太郎、アサワ医院、石田喜久雄、市川高士・きみ子、井上静子、今村京子、岩崎郁雄、上野昭英、鵜飼礼子、ASA宇治西、大谷光真、岡崎芳弘、狩野ゆかり、上阪喜久子、京都聖母学院中・高生徒会、國重阿夜子、小牧貫治、小山猛、雑喉章子、佐藤紀之、重川一郎、島田得三・富子、信田司法書士事務所、鈴木吉則、高石照子、田中良子、鳥居幸雄、中川冴子、中村善治、並河英津子、南波悠紀子、信田尚志、拝師暢彦、橋本勝弥、橋屋秀夫、畑一、百丈山大智禪寺、古澤正道、増本繁清、升山春彦、松村玲子、三間寛次・俊代、村井五郎、村田晶子、メスプコーポレーション、森岡晟、森下ヒサ子、森田紀子、山下育子、山田文諒、山田健一、吉田勇、吉村幸夫、渡辺深雪
- ▼大阪府：青田玲子、赤松正文・日出子・英美、赤松善弘、明坂定、秋田仁士、朝治真澄、朝見堅二、芦田達夫、芦田綱雄、阿達美智子、天野敏彦、荒川房江、荒木康雄、安仲信子、井口理、育和会記念病院有志一同、池川清子、池田清、池谷千代子、池田稔、池田美代子、イサミホ、石田昭勝、石田章、石丸マツエ、泉原昭三、板井清光、一色玄、伊東英明、伊藤政信、伊藤雄大、稲向絹子、井上マツ子、猪原博人、指宿仁孝、今村明美、上岡洋子、上神翠、植坂美穂子、上田輝雄、上羽福太郎、上前眞一、宇澤善一郎、渦居光枝、包治、渦居隆司、智栄子、智美、洋文、洋文、千広、宇野成一、梅川邦夫、梅本修公、梅谷米蔵、浦西美智子、映画「わたしは、ダニエル・ブレイク」チャリティー試写会、江口久幸、衛藤房子、NPOミッション・クラブ、大阪シティ信用金庫、大阪府レクリエーション協会（朝日民踊大会）、大阪深雪会、大塚伸二、大槻博司、大槻正江、大野俊彦、大橋たづ子、大矢明子、大家義明・良子、岡田房子、岡本健治、岡本赳夫、岡本幸男、小河文治、奥野哲哉・美耶子、織田皓一、小野澤知、小野美智雄、小野美智子、小原利博、恩地ヨシ子、加川和代、垣井峯子、柿木敏男、柏井住子、月輪寺・樗本智照、片上清雄、片山恂さんを偲ぶ会、加藤允彦、門田好高・文子・真砂子、金沢楨、金鋼幸夫、金藤喜恵子、狩野貴子、川上静代、川口六郎、北之坊皓司、喜田充郎、北村幾恵、北山早苗、木下雅司、木下李花子、切通良昭、近鉄タクシー、久保田健一、栗本透、栗山尚子、グレース幼稚園、郷司正代、甲田尚子、河野良介、国際ソロプチミスト堺、後藤和彦、琴谷敏治、小西富行、梶正継、小林ファミリー、小林裕子、小松正雄、小峰聖子、小山敏子、阪部元重、佐藤友彦、佐藤嘉昭、佐内ツマ子、鮫島俊治、澤昇・豊子、澤充子、榎サンディ、塩見克美、芝野みな子、嶋倉宏、島田榮一、島津順子、島野その子、清水勇、清水政太郎、白井好彦、人生道場、神野久美、新船満江、菅原猛行、杉浦幸弘、杉田勝洋、杉本房枝、須佐見眞生、鈴木サヨ子、鈴木實、聖愛幼稚園、星翔高校生徒会、瀬尾克忠、瀬部紀美子、世利正義、千綿繁満、曾祇ヨシエ、大同生命厚生事業団、高草保視・二美、高橋良子、田口鐵男、竹内勝、辰巳砂仁美、辰巳孝、田中勝美、田中進、田中八重子、田中暢子、田原英明、田淵哲・多恵子、WS西日本、玉井正光、玉田美智子、段野邦夫、津国民雄、辻外科リハビリテーション病院、堤芳子、津野泰子、津下好子、TK、T.K.、出口孝友、出水泰男・明子・睦子、寺中正義、寺本日出子、土井甲子郎、百目鬼、陶山陽子、徳永信子、豊永哲子、登村輝夫、友田直子・隆、豊嶋淳一、内藤季夫、長岡洋子、中尾サチ子、中尾英樹・みどり、中上佳昌、中川英子、中川三和子、中島忠男、中島チエ子、中島正典、中瀬嘉幸、中田義仁、中西昭次、中瀬昇子、中屋敷清、中山博介、梨山春夫、名村正勝、縄井延子、西内スミエ、西浦貴美子、西尾敏治、西尾止、西河漸、西川和子、西川恭子、西口澄子、西澤政宏、西田衛、西田加代子、西田成廣、西田義幸、西山加代子、沼井清、野口廣太郎、野口美智子、信夫松枝、萩原永美子、萩原克己、萩原友江、橋爪喜久子、波多博美、羽月悦子、林昭男、林郁、林田悦子、林田精二、半田美子、日置雄毅、疋田昭人、日下敦子、菱田二美子、(有)ビッグフォーエンジニアリング、人見善三郎、平井政子、平野元子、平野四次男、福井弘子、福島猛志、福山章紀、藤井賢市、藤井研介、藤田勇、藤田一、藤田幸子、藤本知代子、藤本照子、藤本和喜子、藤原洋子、麩山美佐子、古河拓、古澤清秀・典子、古谷満子、細川浩敬、前田龍夫、前田ひろみ、前野博之助、真砂信三、増田武司、松井一子、松岡晶子、松岡朝生、松村良二、松本忠能、松本欣子、松本秀雄、松本芳子、丸井英子、

円尾クリニック、三浦光夫、三上千晶、水谷泰子、水谷玲子、溝畑伸子、三谷節子、南諭・登代子、南真千子、南洋子、三村晃、宮木暁子、三宅義夫、宮崎いつ子、宮崎弘、宮崎由美、宮前忠夫、村岡かつ子、百野隆一、森栄明子、森栄作、森快三、守口市老連大菊親和会、森恵子、森下敏裕、森富雄、森本恵子、八木和栄、八木黎子、安岡邦昭、矢野清美、山岡稔、山岸健三、山口厚美・牧子、山澤富士雄、山田幸子、山東利一、山中守、大和梱包、山本輝子、山本紀夫、湯浅郁子、行尾嘉孝、芳井恒治、吉田正、吉田真理、吉永由美子、臨床衛生検査研究会大阪府職員会の会、和田綾子、和田信矢、渡辺、渡辺雅美

- ▼兵庫県：相川英子、赤金義一、浅岡芳司、朝倉吉平、朝田菊緒・展子、朝日スポーツクラブ【BIG-S姫路】、油谷卓雄、阿部淑子、飯田規子、石井日出夫、石川澄子、石田光代、伊藤閑子、井上壽子、猪原退蔵、岩原研之輔、梅原隆治、ASA名谷、奥羽徳行、大江良一、大田隆三、大西信貴子、大西正信、大高修作、小笠原順子、沖塩眞一郎、尾崎久枝、小淵孝子、笠原千義、鎗木栄一郎、神澤正三、加味忠司、川上信男・廣子、川端二四雄、北村光司、木村功也、木村武弘、楠井和子、國枝優、久野貴史、久野壬豊、久野誉典、桑垣陽助、小梅喜久子、広嶺中学23回生同窓会、越木岩神社、後藤明美、斎藤郁子、蔡東青、坂元紀子、崎ダイ、佐藤俊三、塩谷章子、重内皋月、重松貞夫、嶋村郁子、清水勤、城玲子、菅村和弘、杉本力、鈴木節子、高田節子、高田フサ子、高山新吉、竹下キミ子、竹中宗雄、田中幸雄、谷穂子、谷政敏、丹治明子、筑瀬重喜、津川尚弥、辻良雄、寺田秀子・宏貴、富川稔、中園日出彦、永田敏一、中原征人、中原康弘、名谷販売所、西村哲男、西本三枝子、野瀬恭子、野村妙、則久正志、橋本敬子、橋本壽明、長谷川喜、初野俊助、花井彩、濱田明美、阪神機設工業、阪神タイガース鳥谷敬、廣辻逸郎、深田輝子、福西秀信、藤井美恵子、藤岡賢子、藤本洋敏・陽子、藤原肇、藤原まさ子、佛立寺婦人会、古高健司、坊淳、堀川法之・登喜子、堀洋子、松本茂、松本寿夫・惇子、松本正秀、松山春子、水嶋幸江、水谷修子、水本雅子、宮城洋一郎、村居哲、望月佐和子、森川昌長、森本教司、八木実、安江和子、山川香子、吉岡孝、吉田和雄、吉田かほり、吉田修一、吉永栄時、脇坂正之
- ▼奈良県：石田勇、井上琢吾・美晶、柴田喜久次、大西和子、大部智洋、小川良雄、学園前ローンテニスクラブ、川畑宗一、川俣明美、川本俊治、木村佐喜夫、木本千津子、小路幹雄、櫻井重成、平恵子、高須由美子、柄窪貞司、中江作郎、中川憲夫、中之瀬文代、中牟田智子、野村進、濱川利郎、本田佐智子、榎森孜、松居良、松下操、村上満寿美、村田稔治、村田敏文、崇徳寺安井伎世子と檀信徒一同、山岡秀一
- ▼和歌山県：青松会職員一同、大岡忠夫、岡八重子、貝川好延、笠松雅子、北田進、木下郁敏・悠・さゆり、坂梨とき子、高村眞知子、竹中信夫、東谷好子、中村啓子、馬淵義也、山本一郎、吉田賢治・三希子、和歌山県立笠田高校
- ▼鳥取県：組藤弼郎、竹田百々、丸谷信夫、山崎郁雄、米原章喜
- ▼島根県：池本輝久、板垣秀美、秀蕊気光研究会、山根武・愛子
- ▼岡山県：高原久雄、大塚由恵、大森マサ子、岡本栄二、折田薫三、金平洋子、金光義弘、木村俊夫、草下伸介、黒飛史朗、酒本登美子、佐藤とも子、白井智久、杉本英子、高橋辰雄、谷村昌枝、徳山孝義、中村淳一、橋目敏行、早津純子、星野謙蔵、本郷扇、松本英明、森原誠一、吉田豊久
- ▼広島県：青木和彦、東三千年、後迫裕子、石井美智子、石田泰正、稲井はつ枝、井上年光、ASA焼山、角田幸信、片桐悦子、金田鈴江、是光百合子、迫晋作、佐藤嘉展、支那そば処たんぼぼ、中村耕也、中村好江、浜田春之、平野貴美子、平野恭子、藤本文恵、藤原紀男、正岡義己、村上益夫、安井博義、矢野清、山手万知子
- ▼山口県：赤川悦夫、朝日新聞下関販売、池田和生、伊藤医院、今住功、井本芳宣、潮浩、織田哲至、片岡逸、河本眞龍、神田正美、蔵貫京子、古賀明友、護國寺、里中智、神徳内科医院、隅田茂生、高松恵美子、武居稔博、林光文、原田巖・初称、広重清子、広田幸名、深本良一、藤本裙子、堀田洋一郎、松崎浩司、松本美枝子、明林寺、宮本甫子、村田勲司、安田英史、山根喜美、山岡邦雄・恵美子、山本春夫、吉見ラジオ体操おはよう会、吉村内科医院、渡邊おでみ
- ▼徳島県：泉公允、原田寛子、山内正幸・迪子
- ▼香川県：市原晴穂、西山美智子
- ▼愛媛県：合田治二、笠原正直、河井典子、木下誠一、河野チエ子、瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチ実行委員会、曾我幸弘、続木孝子、砥部焼陶芸館中村昭光館長（チャリティー陶芸市の収益金）、藤原美鈴、山本義久
- ▼高知県：小川千賀子、尾崎善博、田中十糸子
- ▼福岡県：青木英一、青山整形外科医院、秋成府左治、朝日新聞海老津販売店、朝日新聞福岡販売、朝日メディアテック、油絵屋大哲、有馬護宏、安西義孝、飯塚聖母幼稚園、池田暁彦・加寿子、池園美美子、池田知光、池野美都子、石川節子、石橋大海、伊豆邦夫、磯矢洋子、井上明人・みどり、井上静子、井上商会、井上祐毅・麻衣子・直哉、今村寿和、今本久美子・文徳、入江十三子、岩田光雄、植田朋子、上野潔、内山健治、梅田勇、梅谷敬哲、NTTフィールドテクノ北九州営業所、大石雅史、扇谷範可、太田久香、大塚保人・明子、大西純一、大西克己、大野クミ子、大村公人、岡崎博子、小方和子、岡田幸子、奥園えり子、奥平成男、小倉弘孝、OZUMIクリニック、小原秀俊、小山田秀子、柿添富久子、風師山早朝登山会、梶務、春日雅樹、蟹川英幸、金子隆彦、兼田キミ子、鴨川隆彦、苅田ロータリークラブ一同、川関富美子、川原和子、川原洋治・幸子、川村勝自、木下敦志・ヤエ子、木下京子、木下景子、木村賢示、木村幸隆、吉良山勇、工藤五六、久保一博、熊本五年、蔵永知彦、倉本恵美子、栗山太、桑原純、桑原俊治・しのぶ、小石純也、国際ソロプチミスト北九州一東、小熊坂公千、古島孝子、小嶋房江、古庄三喜男、小館三郎、児玉正子、小宮田鶴子、西生寺護持会、坂本健二・博子、佐久間紘一・充子、佐々木愛子、佐々木清、茶道裏千家淡交会北九州支部、佐藤武美、實藤

正利・さかゑ、佐保肇、佐柳秀明、椎野千代子、塩野玲子、十連病院、城島伸介、白土八郎、杉本周嗣、田尾美智代、高倉一郎、竹中久、高村広、田川勇、多川洋子、竹中千、立石シマ子、田中大二、田中時雄、谷口正純、谷崎真行、田端一敏、田原整形外科医院、田村龍夫・未子、長治良知、ツジ胃腸科医院、土川勝美、土倉外科胃腸科医院、恒富誠、坪井商店、手嶋秀子、天満紀子、土居麗子、戸田三七生、富岡春子、友井滋、取違芳弘、中島乃婦子、中島弘子、中島与志行、永田泰徳、永富榮子、中村進一、中村治雄、中村寿、成重博美・まり子、新名恵子、西田影乃、西日本カラオケ連合、西牟田奈々、野上智宏、野口貢、野原勲、橋爪淳二、馬場武、原田礼子、肥後つねの、日高高枝、日比生隼斗、姫路秀明、冷牟田つる子、平井信廣、平野敏弘、昼酒4人のおじさん、弘中将隆、吹原正子、福井義雄、福岡国税局一同、福岡吹奏楽連盟、福岡聖恵病院、福吉三代子・美紀子・新、藤崎良之、藤崎節子、藤島クリニック、藤田健司・逸子、藤田雅之、藤巻隆男、藤好三千代、湊上鯉一、古川和則、堀芳和、本田幸一、前田奉一郎、前田稔、牧山薫、松井昭子、松井和弘、松岡順之介・彰子、松木俊正、松下徹、丸野了、溝口義晴、溝部忠増、宮本邦夫、向笠洋三、村上葉子・村上靖子、村上啓子、村上歯科医院スタッフ一同、村上信行、目原清嗣、森真由美、森脇巖、安岡廣信、保永惇治、安中康子、安村茂男、山下新一郎、山下幸子、山田久美・富美子、山田初子、大和ひろみ、山本賢輔、山本哲夫、山家内科医院、行橋クリニック、横川満彦・和子、吉永正人・郁子、嘉村起美子、米倉昭史、林成寺

▼佐賀県：草野正雄、橋本純一、豊田俊明、林田隆雄

▼長崎県：上野博子、後田敏子、須磨律子、原本康雄、百田眞瑛彦

▼熊本県：荒木鎮雄、緒方直之、岡野正義、鈴木一臣、橘寛、田中忠夫、樽海友希、中村医院、野崎隆、宮崎内科胃腸科医院、宮田和子、森本政幸、吉田玲子

▼大分県：朝日新聞大分販売、安達和子、石橋弘行、ASA飯田、加藤幸俊、棕園ミヨ子、河野なみ子、後藤秀治、佐藤トシ子、友弘清文、なかしま新聞店、中山政巳、野上和恵、野坂浩代、深川充、本田和子、増田道男、美登公希、美登吉亮、山崎福男

▼宮崎県：赤池義昭、井上清美、緒方佳枝、樺山資紀、黒木ミサ、県南病院、矢野光子

▼鹿児島県：木村龍一郎・理、桐明桂一郎、久木田康、蔵屋一枝、田原睦郎、徳世津夫、西あつ子、林本拓也、春山雅美、細山田良輝、牧了慈、山内正恵、脇本病院

▼沖縄県：仲村宏春



## 中期計画2020 ～新しい福祉のカタチをめざして～

### はじめに

近年の社会情勢の変化、とくに社会福祉の領域における変化は、かつてないほど急激なものとなっています。格差の広がりによって地域に要援護者が拡大し、それらに対応していくための地域を育み、福祉を支える人を育むことが、時代の要請となっています。

そのような環境の中、社会福祉法人の経営、運営に対しては非常に厳しい批判が社会から向けられています。2017年4月に本格施行される改正社会福祉法はまさに、財務規律やガバナンスの強化、運営の透明性を社会福祉法人に強く求めています。

事業団はこれまでも、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みは、事業団の運営を改めて見直し、これからの福祉を担うユニークかつ先進的な法人として確固とした運営基盤づくりをするにあたっては、よい機会であるともいえます。

このため事業団は、16年度半ばに、事業戦略検討チーム（通称：コアチーム）をつくり、中期計画づくりに着手しました。職員全員が参加する（参加できない人はメールなどで意見をよせる）「みらい会議」を招集して議論し、おおむね2020年までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

今回は、私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を明確にかかげました。これまで事業推進の3本柱としてすえてきた児童、高齢者、障害者という枠組みを超え、次代の福祉に対応させるべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」を事業団の新たな三つの軸とし、あらゆる事業をその実現に向けて展開する形に、理念や方針を整理いたしました。

この枠組みにより、各分野を横断するような事業が立ち上げやすくなると思います。積立金も事業推進の理念にそって組み替え、その用途を明確にしました。さらに事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがいつそう高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。ソーシャルメディアも積極的に活用します。

ミッションステートメントを軸に構築された今回の計画は、これからの事業団を次代の福祉を担う組織に進化させるものと確信しています。

### 1. 事業団の社会的使命

#### ①ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞というブランドを効果的に活用し、地域と人を育み、支援の輪をつなぐなかで、誰もが自分らしく安心して暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携

#### 私たちの使命

先駆的に取り組んできた歴史をふまえて未来を見すえ、地域と人を育み、支援の輪をつなぎ、お互いに支え合いたれもが安心して暮らせる社会をつくる

しながらめざしていきます。ミッションステートメントには、旧来の児童、障害者、高齢者という枠組みでは対応しきれない、介護者（ケアラー）の支援や貧困問題への対応など、新しい福祉問題に積極的に対応していきたいとの思いが込められています。

## ②職員モットー（事業への向き合い方）

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員モットーをかかげます。新聞メディアの特性「信頼」「発信力」「情報力」をいかし、福祉ニーズへの対応やその解決に、これまで以上にスピーディーに取り組みます。その際には公正・中立な立場を堅持します。立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、独りよがりの考え方に陥ることなく、事業をすすめます。

### 活動モットー

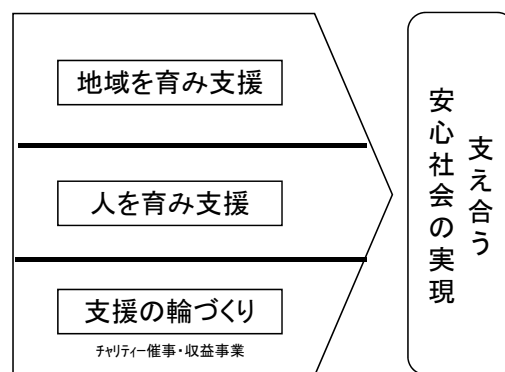
- ・時代に必要とされる仕事をめざす
- ・社会的な視点を意識する
- ・新たな課題の発見に努める
- ・スピード感をもって仕事にあたる
- ・効果、効率を追求する
- ・質の高い仕事をめざす
- ・常に仕事を刷新する
- ・持続可能な形をめざす
- ・当事者を尊重する
- ・支援者、寄付者の視点を尊重する

## 2. 事業展開

### ①新「三つの軸」

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。各事業については、職員モットーでかかげたように、より当事者、そして支援者の思いを大切にし、また、絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。

2017年度からの新規事業は、この三つの軸の考え方をもとに着手することになります。旧来の児童、高齢者、障害者といった福祉領域のサービスもこうした概念を取り込み、発展的に展開します。



### ②地域にも積極的に貢献

地域で新たな福祉事業を始められるかどうかについて、勉強会を設けて探っていきます。地域公益事業についても、責任をもって運営にあたっていきます。すでに多彩な事業を展開していますが、より充実させ地域に発信していきます。

### 3. 拠点と要員

#### ①全国規模で対応

事業団は朝日新聞各本社に事務局をもち、全国規模で事業を展開しています。今後も全国に目配りをする姿勢をもちつつ、東京と、西部、名古屋を含む大阪の「2極」体制を続けていきます。大きな災害などのリスクに備える一方で、人、事業を分散させ、効率的な事業展開ができるようつとめます。また、異動などを含めた職員の交流により、広い視野をもち、グローバルな視点で事業をすすめることができるようなキャリアアップへの道筋も整えます。



#### ②適正な人数配置

全国展開をする一方で、それぞれの事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、各事業所に必要な人員を配置していきます。

いまの地域別の事業費ベースでの内訳は、東京が約70パーセント、西部事務所と名古屋事務所を含む西日本事業部で約30パーセントとなっています。当面はこうした割合を念頭におき、それに必要な人員配置をしていきます。それぞれの事業所は、本部事務所と連携しつつ、事業所レベルでの財務的に安定した運営をめざしていきます。

#### ③職員のスキルアップ

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。福祉のスペシャリストを招いての勉強会といった職員研修を充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベートしていきます。

多様な働き方ができるよう、育児や介護時の就業を支えるフレックスタイム制の導入などについて今後検討し、環境整備に取り組みます。

### 4. 財務戦略・ガバナンス強化

#### ①「次世代型積立金」に組み替え

近年の福祉は、貧困の問題に象徴されるように、問題が複雑化しています。児童、障害者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況が生まれつつあります。

これに対応するために積立金を「児童支援」「地域支援」「人材支援」「東日本震災復興支援」の4つに分けて設定します。さ

積立金名称	積立金の趣旨	主な充当先
1. 児童福祉振興基金 (含む山岡基金) 7億2千万円	社会的支援を必要とするすべての子どもたちに夢と希望を与えるための基金。	・進学応援金 ・子どもの貧困助成
2. 地域福祉振興基金 4億4千万円	誰もが、年を重ねても安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与する基金	・認知症プロジェクト ・認知症カフェ開設応援助成
3. 福祉人材育成 啓発交流基金 2億7千5百万円	次代の福祉を担う人材を育み、その交流と福祉の啓発に寄与する基金	・手話スピーチコンテスト ・朝日夏季保育大学 ・ゆうゆうジット
4. 東日本大震災 地域支援基金 3億793万円	東日本大震災で被災した地域の復興に寄与する基金	・朝日のあたる家 ・被災地訪問プログラム

らに、それぞれに該当する事業を仕分けします。今後は各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。児童、高齢者、障害者という会計的な枠組みに収まらない事業に柔軟に対応していきます。

#### ②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は4億円程度で推移しています。金額的には妥当なスケールであると思われます。しかしながら、寄付金収入やチャリティー事業の収入が今後落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業をあらたに開拓する必要性が出てきます。

ネット空間を使った新たな寄付受け入れ手法の導入や、新しい視点でのチャリティー事業づくりなどに、全力をあげて取り組んでいきます。

#### ③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底などの要請が強まっています。事業の収支については、各事業のフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、これまで以上に厳密な管理をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、一定の外部組織等による監査も導入します。

#### ④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、おおいに前向きな議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また朝日のあたる家のように、他団体を通じて支援している施設の老朽化に対応するメンテナンス費用などについても適切な金額の積み立てを考えておく必要があります。つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

### 5. 広報展開

#### SNS（ソーシャルネットワーク）を積極的に活用

SNSの社会的な影響力は高まる一方です。事業団は法人独自のホームページをもち、その更新につとめ、催しなどの広報をしています。SNSの影響力が大きくなるなか、それらへの適応が急務となりつつあります。本格的な導入に向けてしっかりとした態勢をつくり、催しのいくつかでインスタグラム、ツイッター、フェイスブックなどを活用した実験的な取り組みをはじめます。

また、ウェブマーケティング（グーグルアドワーズを使った広告など）を一部の事業で活用し始めていますが、これらの活用も積極的に模索していきます。

### おわりに

今、社会福祉法人の制度改革がすすめられています。この中期計画も、この法改正に対応する内容になっています。この度の改革の趣旨は、社会福祉法人の存在意義を問うものであり、私たちはこの要請にしっかりと応えていくべきと考えます。この計画は、新しく求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね2020年までの方向性ということでまとめましたが、最新の福祉ニーズに対応するために修正が必要であれば、期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きます。職員各自の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに統合され、新しい福祉のカたちをつくっていけるよう、努力してまいります。

## 朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内

## ◆朝日福祉ガイドDVD◆

<p>『自閉症の人が求める支援 全3巻』</p> <p>セット価格 10,692円</p> <p>各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した画期的なDVDです。第1巻「基本編 基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編 構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実践編 自立のための構造化」(112分)。</p>
<p>『自閉症の人が見ている世界 全3巻』</p> <p>セット価格 10,692円</p> <p>各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点です。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)・第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)・第3巻「13人のエピソード」(85分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの評価 全4巻』</p> <p>セット価格 18,144円</p> <p>各巻 4,860円</p>	<p>自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、分かりやすく映像化。第1巻「評価のしかた」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの自立課題 全3巻』</p> <p>セット価格 13,608円</p> <p>各巻 4,860円</p>	<p>「自分是可以る」という感覚を養い、いろいろなことに取り組む意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。</p>
<p>自閉症児の治療教育シリーズ(米国ノースカロライナ州TEACCHプログラム) 各巻3,024円</p>	
<p>『自閉症児の明日のために -TEACCHのねらいと考え方-』</p>	<p>プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介、自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆(49分)。</p>
<p>『親のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>親が実践できるように、家庭での援助の実際を具体的に分かりやすく紹介(67分)。</p>
<p>『教師のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>教室やスケジュールの設定、親との連携など、教師や指導員の参考に(69分)。</p>
<p>『青年期・成人期のTEACCHプログラム』</p>	<p>学校卒業後の就職・居住・余暇など青年期・成人期向けの援助法を紹介(55分)。</p>
<p>◆朝日福祉ガイドビデオ◆</p>	
<p>『自閉症の治療教育』</p> <p>3,024円</p>	<p>全米自閉症児親の会の様子や米国ノースカロライナ州の自閉症の療育への取り組みを紹介。(60分)</p>
<p>『TEACCH』</p> <p>3,024円</p>	<p>TEACCH部で行われている1週間にわたる教師のための訓練セミナーの様子を詳しく紹介。(90分)</p>



<b>◆朝日福祉ガイドブック◆</b>	
『生き方、逝き方ガイドブック』 1,296円	どうすれば本人らしい「逝き方」ができるのか。タブー視されがちだったこの命題を新田國夫医師とともに考え、整理しました。
『なるほど高次脳機能障害』 1,296円	高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、リハビリ、社会参加まで、豊富な事例で解説しています。
『みんなのうつ』 1,080円	うつ病の「分かりにくさ」を整理し、正しく理解するための入門書。治療法や対処法も解説。監修は精神科医の大野裕さん。
『認知症とともに』 1,080円	認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでイラスト入りで解説。
『自閉症の人を支援するということ』 864円	TEACCHプログラムの最高責任者、ゲーリー・メジボフ教授が自閉症の障害とプログラムの内容を分かりやすく解説。
『自閉症のひとたちへの援助システム』 540円	TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、プログラムを日本でいかに生かすかを提案。
『100%あらくん』 648円	自閉症のあらくんの大活躍を、母親が描いた4コママンガ。自閉症の子どもと、その家族の日常が理解できます。
『精神障害者のホームヘルプサービス』 864円	精神障害を正しく理解し、当事者の立場で支援できるよう、関係者の体験談や豊富な事例で分かりやすく解説しています。
『きみといっしょに』 540円	全国のLD児を持つ親たちが、LD児への理解や付き合い方をまとめた手引。Q&Aと、推薦する相談・診断機関なども掲載。
『くるまいす-第3改訂版』 324円	車いすの種類や構造、介助の基礎的な方法やポイントを分かりやすく解説、公共交通機関の利用についても触れています。
『新・川崎病がわかる本改訂増補版』 540円	乳幼児を中心に発病する原因不明の“川崎病”について症状や特色、療養上の注意、相談窓口などの情報を加えて解説。

※価格はいずれも税込み(2017年3月31日現在)

### ◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かファクス、電子メール (guide@asahi-welfare.or.jp)  
で下記までお申し込みください。

(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記してください)

ホームページ (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

tel:03-5540-7446 fax:03-5565-1643

## 朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

### 人間尊重の原点に立って

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食料、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食料や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診療券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第2次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や衣料品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃虚の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出勤して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長とともに事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生のための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ね

る「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンスNIPPON」を開催しています。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタート、「手話の甲子園大会」として定着しています。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人が車いすを製作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など、多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市の地域交流施設「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、全国的な活動に力を注いでいます。

## 2016年度 事業活動計算書より抜粋

(2016年4月1日~2017年3月31日)

単位:円

サービス活動収益	334,654,567	サービス活動費用	440,423,082
事業収益	139,816,170	事業費用	218,223,558
児童福祉事業	3,195,317	児童福祉事業	51,489,045
障害者福祉サービス等事業	12,566,687	障害者福祉サービス等事業	24,760,372
老人福祉事業	1,266,207	老人福祉事業	60,971,228
チャリティー事業	113,118,199	チャリティー事業	74,415,252
医療と公衆衛生	3,008,250	医療と公衆衛生	431,744
福祉啓発推進	0	福祉啓発推進	1,819,330
朝日福祉ガイド(DVD他)	6,661,510	朝日福祉ガイド(DVD他)	4,336,617
経常経費寄附金収益	194,621,727		
雑収益	216,670	人件費	166,723,465
		事務費	54,662,623
		減価償却費	754,018
		徴収不能額	59,418
サービス活動外収益	5,797,033	サービス活動外費用	0
受取利息配当金収益	5,797,033		
		当期活動増減差額	△99,971,482
合計	340,451,600	合計	340,451,600

詳細は、当事業団のホームページをご覧ください。

## 理事・監事・評議員名簿

2017年3月31日現在

## 社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事 6人 監事2人 評議員 13人) 敬称略・順不同

理事長	飯田 真也	朝日新聞社会長
常務理事	大井屋健治	朝日新聞厚生文化事業団常務理事
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	早瀬 昇	認定特定非営利活動法人日本NPOセンター代表理事
同	越村佳代子	元社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
同	服部万里子	服部メディカル研究所所長
監事	亀岡 保夫	公認会計士 大光監査法人理事長
同	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会理事兼執行役員
評議員	山田 昭義	社会福祉法人AJU自立の家専務理事
同	影山 秀人	弁護士 子どもセンターてんぼ理事長
同	佐藤 佳則	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	石川 到覚	大正大学名誉教授
同	大塚 晃	上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
同	佐野 信三	社会福祉法人大阪婦人ホーム理事長
同	大谷 泰夫	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構理事
同	長浜 力雄	NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク理事長
同	関戸 衛	元朝日新聞厚生文化事業団常務理事
同	谷 啓之	前朝日新聞厚生文化事業団広報担当部長
同	小林 秀樹	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	小原 洋	朝日新聞社ブランド推進本部長補佐
同	高地 忠	朝日新聞社財務担当補佐

## お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿

## ■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
 TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643  
郵便振替…口座番号「00130-1-9166」  
銀行振り込み…三井住友銀行新橋支店 普通「303668」

## ■大阪事務所

〒530-8211 大阪府大阪市北区中之島2-3-18  
 TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

## ■西部事務所

〒812-8511 福岡県福岡市博多区博多駅前2-1-1  
 TEL092(477)6930 FAX092(477)6931

## ■名古屋事務所

〒460-8488 愛知県名古屋市中区栄1-3-3  
 TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

※ご寄付に際して朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求ください。銀行振り込みの場合は事前にご連絡ください。クレジットによる寄付もホームページで受け付けています。

※各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

※当事業団への寄付金は所得税法・法人税法による寄付金控除が認められています。

ホームページ:<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

## 朝日新聞厚生文化事業団職員名簿(2017年3月31日現在)

## ■本部(東京)

事務局長 是永一好  
 事業部長 野崎貴士  
 企画部長兼広報担当部長  
           久保田裕  
 管理担当部長 大羽淳一  
           落合すが子  
           北村美樹  
           小倉玲子  
           小林明由  
           古屋厚子  
           富岡信幸  
           藤田祐子  
           松岡百合  
           宮前賢

## ■大阪事務所

西日本事業部長兼大阪事務所長  
           山本雅彦  
 西日本事業担当部長  
           中村茂高  
           上野平真美絵  
           勝見文子

## ■西部事務所

事務所長 重光雄二  
 専門委員(西部在勤)  
           福田年之

## ■名古屋事務所

事務所長 田中彰





THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2016

平成28年度

事業  
報告

ホームページで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

2016年度 事業報告

2016年4月 1日から

2017年3月31日まで

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団